ライオン誌（毎月20日発行）第54巻第7号 2011年12月20日発行 第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

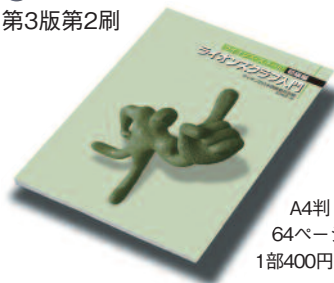
WWW.THELION-MAG.JP JANUARY 2012

1

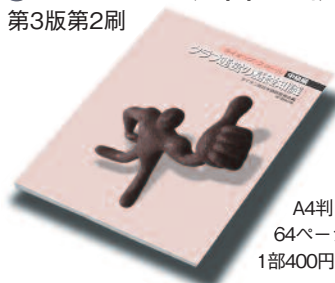
# マニラ・フォーラム

# ライオン誌日本語版出版物

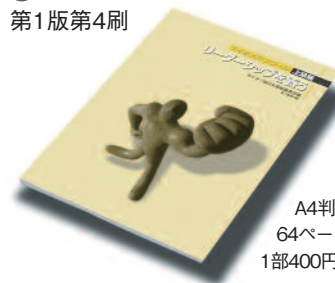
## ライオンズスクール・シリーズ

### 初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

### 中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。

### 上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

### ウィ・サーブ

1952年に初めてのライオンズクラブが誕生してから50年。世界有数のライオンズ国となった日本ライオンズ半世紀の軌跡。
B6判 332ページ
1部800円・送料実費

### ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。ジョーンズの書簡集と寸言録も収録。
B6判 224ページ
1部800円・送料実費

### 『ライオン』誌創刊号復刻版

1958年、『ライオン』誌日本語版創刊。発行部数はわずか4,500部だったが、誌面からは草創期の活気がひしひしと伝わってくる。
B5判 68ページ
1部300円・送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jpあてにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

## ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部
●リーダーシップを養う …………　部
●ウィ・サーブ …………　部
●ライオニズムよ永遠に …………　部
●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

| 地区名 33 - | クラブ名 | お名前（クラブで注文の場合は不要） |
|---|---|---|
| ご住所 〒 - | | お電話番号 |

We Serve CONTENTS

■2012年1月号
表紙
北海道士別市
士別神社
写真／鈴木秀晃



本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

**MESSAGE FROM THE PRESIDENT**

## ライオンズの使命を信じて

信念を新たにするこの季節に当たり、まずは仲間のライオンズの皆さん、その愛する人々、友人とご家族のご多幸を心からお祈り申し上げます。

これまでの5カ月間、私たちは長い道程を歩んできました。世界を変えるため、恵まれない人々を支援するために会員の一人ひとりが発揮出来る力を、私は常と変わらず強く信じています。

100万本の植樹という目標は早くも達成され、そのことには誇りを感じていますが、同時に慢心してはならないという気持ちにもなります。津波に破壊された日本の土地、竜巻の傷跡が残るアメリカの土地、またアフリカや南アジアの危機的な状況にある森林など、植樹は場所を問わず世界中の会員を結び付けてきました。楽しくやりがいのあるこの活動は、クラブを団結させると共に、会員自身とその奉仕する地域社会の人々に笑顔をもたらします。10月までにライオンズが植えた木は、60カ国余りで合計420万本に達しています。これは実に驚くべきことではありませんか。

目標本数を改めてはどうかと勧める仲間もいますが、私は丁重にお断りすることにしています。なぜなら、目標は会員一人ひとりの心の中にあると信じているからです。どこまで進むか、何本の木を植えるかを決めるのは彼ら自身です。たとえ1本に過ぎなくても、植えられたすべての木が意味を持ち、すべての会員が重要なのです。

ご存じのように、植樹は確実に環境のためになる行為であり、森林の喪失という地球の重大な危機に直接対応するものです。しかし私にとって、それは未来に貢献する国際協会の強力なシンボルであると同時に、友人、家族、その他の人々に実行への参加を促す動機でもあります。

「マイクラブ・マイファミリー」の取り組みに対するライオンズの反応も、誇りと共に引き締まった気持ちを感じさせます。今年度会員は大幅に増加しており、10月までの純増数は1万2千人を超えています。しかし、新たな会員を呼び込むことは簡単です。彼らを家族のように扱い、有意義な奉仕に参加させてこそ、クラブに留まらせることが出来るのです。

以上のように、この5カ月間のあらゆる成果を見れば、「I Believe（私は信じる）」が「We Believe（私たちは信じる）」へ進化したことは明らかです。それは会員の皆さんのおかげであり、ライオンズの成し得ることを一人ひとりが信じてくれたからに他なりません。皆さんの信念、またそれ以上に重要な行動は、私がライオンズクラブ国際会長として手にする中でも最高の贈り物を与えてくれています。

ライオンズの偉大なる奉仕の使命を信じることで、皆さんの日常の家庭とクラブに温かい家族の光が満ちますように。

2011-12年度国際会長
ウィンクン・タム

**THEME I：第50回東洋・東南アジア・ライオンズ(OSEAL)フォーラム**

# 未来への黄金の夢を信じて

## 2011年11月24日(木)～27日(日) フィリピン・マニラ首都圏パサイ市

大きな節目となる第50回OSEALフォーラムが11月24～27日、フィリピン・マニラ首都圏のパサイ市で開かれた。フォーラム・テーマは「未来への黄金の奉仕」。第50回を黄金の価値ある年と捉え、またライオンとしての黄金の心、黄金の人道主義奉仕、未来への黄金の夢を示唆している。この機にOSEAL出身の国際会長を得たことで、求心力のあるフォーラムとなった。

取材／河村智子・柳瀬祐子

ウィンクン·タム国際会長から感謝の盾を贈られるアントニオ・カリスト パサイ市長。中央はマイケル・ソー フォーラム組織委員会委員長

開会式冒頭のインターナショナル・ショーでは、フィリピンの民族舞踊の数々が披露されて、式典に華を添えた

11月25日：開会式／ジャパン・レセプション

❶ジャパン・レセプションで武久一郎2012～14年国際理事候補者を激励する山浦晟暉国際理事　❷「東日本大震災を始め世界中で災害が頻発しており、ライオンズの『ウィ・サーブ』が必要とされている。当選を果たした暁には、国際理事として力を尽くしていきたい」。武久候補者の所信表明に、大きな拍手を送る地元336複合地区のメンバー

フィリピンは東南アジア唯一のキリスト教国である。12月を迎えようとするこの時期、常夏の街にクリスマスの装飾があふれ、フォーラム会場もホテルも華やかに彩られていた。

フォーラム会期4日間のプログラムは、そのほとんどがフィリピン最新・最大の展示会議場であるSMXコンベンション・センターで行われた。隣接するモール・オブ・アジアはアジア最大規模のショッピング・モールで、食事や買い物を楽しんだ参加者も多いだろう。

## 出発点、マニラに集う

東京ライオンズクラブがマニラ ライオンズクラブのスポンサーで結成されたのが1952年。その5年後の1957年12月に、OSEALフォーラムの前身である第1回アジア大会がマニラで開催された。両国にとって思い入れの深い大会で、アジアのライオンズの発展への期待にあふれていたことだろう。

第50回を迎えた今年、出発点となった地に6500人のライオンズが参集した。日本からは最多の2307人が登録、全体の3分の1を占めた。ウィンクン・タム国際会長を始め執行役員らは口々に、OSEAL地域は国際役

## 26日：各種会議／セミナー／レセプション

❶ウェイン・マデン国際第1副会長と第1副地区ガバナーの会議 ❷バリー・パーマー国際第2副会長と第2副地区ガバナーの会議 ❸女性会員シンポジウム ❹日本語セミナーでは武久国際理事候補者が「盲導犬と私」、山田實紘国際理事会アポインティー（写真）が「ライオンズの将来」をテーマに講演。また英語セミナーでは後藤隆一元国際理事がパネリストを務めた ❺次回開催地福岡をPRする第51回フォーラム・レセプション

員らリーダー及び各クラブにおける活躍まで、協会において欠くことの出来ない存在であることを称え、LCIFへの多大な貢献に対する感謝を述べた。

今フォーラムでは、OSEALからの2012～14年国際理事候補者としてライオンチャン・ユイ・タイ（台湾）、ライオンタイヤン・キム（韓国）、そして日本のライオン武久一郎（336複合地区）を推薦することが決議された。また、フォーラム開催国ローテーションに中国が加わることも決まった。次の半世紀も変化し、前進し続ける兆しのようだ。

### マイOSEALファミリー

タム国際会長はOSEALが輩出した4人目の国際会長である。「我が地

2012～14年国際理事候補者❶チャン・ユイ・タイ元地区ガバナー（台湾）❷タイヤン・キム元地区ガバナー（韓国）❸武久一郎元協議会議長（日本・336複合地区）❹ソー組織委員長から次回福岡フォーラムの不老組織委員長への引き継ぎ

### 国際会長とクラブ会長の会議

タム国際会長は出来るだけ多くのクラブ会長と会って意見を交わすよう努めており、今フォーラムでもその機会が設けられた。タム会長が質問や意見、クラブの活動を紹介してほしいと促すと、次々に手が上がり、情報と熱意を共有する会議となった。発言をいくつか紹介する。

クラブ会長（以下C）「私たちのクラブでは障害者が地域の施設を見学するツアーを実施し、メンバーの学びにもなっている」

タム会長（以下T）「見ることは信じることだ。お金を出すだけでなく、会員のキャリアを生かして活動することは重要だ」

C「私たちはNPOと協力して小学校の校庭での植樹を続け、子どもたちに木を植えることの大切さを伝えている」

T「子どもたちが参加出来るすばらしい活動。今後も続けてほしい」

C「我々OSEALの国々には仏教や道教などに代表される東洋思想が根付いている。ライオンズのメンバーも人々から信頼を得られるよう人格を高める努力をすべきだ」（会場から拍手）

## 27日：閉会式

4

3

2

1

域の会長」の誇りと喜びを、フォーラム参加者は共有した。

「100万本の植樹」の目標が600万本を超えた。世界では今年度1万6千人の会員増を遂げている。タム会長の発表に会場が沸いた。「現在23%の女性会員を50%まで増やし世界の会員数を200万人に」「OSEALでは30万人を目指そう。実現可能か？」の問い掛けには、「We Believe」の声が応え、「マイOSEAL、マイ・ファミリー」が一体となった。

今フォーラムでは開会が遅れたり、準備不足の点も随所に見られた。しかしそれも、フィリピンののんびりしたお国柄。各国持ち回りで開催するフォーラムならではのことだ。日本設定の体内時計を切り替えて、ゆったりとした気持ちでその特色を味わうのが醍醐味なのかもしれない。

次回のフォーラムは2012年11月8～11日、福岡で。半世紀の折り返し地点から最初の一歩を刻む。日本の持ち味を披露する機会だ。不老安正フォーラム組織委員長は閉会式で、有意義なセミナーを始め多彩な企画や、市民も参加出来るフォーラムとし、ライオンズの存在を広くアピールすると述べ、多くの方々の来福を期待していると告げた。

# 参加者が見て、感じた マニラ・フォーラム

**フォーラムに参加したライオン誌サポーター3人から寄せられたリポートと、会場で聞いた声から、マニラ・フォーラムを振り返る。**

7年前、マニラで開かれた前回のフォーラムは、初日に台風の直撃を受けた上、火災の影響で急きょ変更された開会式会場は耐え難い蒸し暑さだった。参加された方には苦い記憶として残っているのではないだろうか。今回は過ごしやすい好天に恵まれ、近代的設備の整った会場は冷房がしっかりと効いていた。だが、参加者の間からは、進行のルーズさなど運営面での不満の声が数多く聞かれた。

「全体的にプログラム進行がアバウト過ぎる感じがします。時間配分もしかり、どの会場も騒音一色で、あまり良い印象ではありませんでした。他の参加者も、異口同音に同じような印象を伝えていました。私はゴルフ・トーナメントに参加しましたが、詳細の情報が当日まで取れず困りました。会場も1カ月前に変更になっていたことが、前日まで分かりませんでした。それでも結果的には、他国からの参加者と一緒にプレーし、本当の意味での親睦・交流も図れ、楽しくリフレッシュ出来ました」（ライオン高橋澄栄／埼玉県・戸田ライオンズクラブ）

「開会式での同時通訳サービスが無い。せっかく中央の席に座ったのに、ビデオ、写真撮影の一群が視線の先にありステージが見えないなど、私を含め周囲の方々の不満はたくさんありました。国際会長晩餐会では、飲み物が運ばれてきたのが開会から2時間近く経ってから。しかもウエーターに生ビールの半券を渡したのに、持ってきたのは有料の瓶ビールでした。終始そんな有り様で、あまりの対応の悪さにうんざりでした」（ライオン寒河江潤一／地区幹事／山形県・天童舞鶴ライオンズクラブ）

こうした批判の一方で、「ここでは思い通りに事が運ばなくて当たり前」という達観の声も。そうした国民性だと思えば、ある程度は許容するしかないということか。

国民性と言えば、フィリピンのライオンズは明るくフレンドリーにOSEALの仲間を迎えてくれた。他の開催地ではボランティア・スタッフに頼ることの多い登録や案内に、多

くの地元メンバーが当たっていた。登録場ではマイペースで作業するフィリピンのメンバーに混じって、日本語ブースで手際よく仕事をこなす日本人女性メンバーの姿も。

「『登録を担当してくれませんか？』と組織委員会から依頼されたのが開催1週間前。初めてのフォーラムを楽しもうと思っていた私は、前日23日から会場にいちばん近いホテルに缶詰めとなりました。それもそのはず、朝7時半には会場に入り、夕方5時までノンストップの受け付け対応。特に開会式の日はあまりの忙しさにトイレに行くのも忘れました。そして、2300人超えという日本人の参加者数を聞いて驚きです。ホスト国フィリピンに日本人ライオンがいることに皆さん驚かれていましたが、私もフィリピンにいながら、こんなにも多くの日本人ライオンに会えたのは大変うれしいことでした。たくさんの新しい出会いがあったフォーラムに感謝です」（ライオン佐藤知穂／タルラック・ホストライオンズクラブ）

フォーラムは海外の、そして国内の他地区のメンバーと交流する絶好の機会。そうした楽しみを味わえるのが、国際理事候補者を擁立する国々が開くレセプションだ。

「開会式の終了後、韓国、台湾、日本

のレセプションに参加しました。会場が隣接し、また開会時間が30分ずつずれていたので、順番に回ることが出来てとても良かったです。ジャパン・レセプションでは、336複合地区の皆さんががんばって接待してくれて、好印象でした」（ライオン寒河江）

「武久一郎候補者激励のために国際会長、国際理事多数のスピーチが行われました。料理、飲み物も十分に用意されていて、会場は８００人の参加者でにぎわいました。武久候補が抱負を述べると、『イチロー』コールが沸き上がりました。釜山国際大会には多数の日本の代議員が参加して武久候補に投票され、当336・A地区から故(ライオン)岡元大三に続く2人目の国際理事に当選されることを祈ります」（ライオン志賀勝則／愛媛県・今治くるしまライオンズクラブ）

来年は7年ぶりの日本開催。福岡フォーラムに、参加者はどんなことを期待しているのだろうか。

「他国から『さすが日本におけるフォーラム』と評価して頂けるようにしたいものです。例年、大半の参加者がトラベル・エージェントを利用することから、個人の参加者には詳しい情報が伝わってきません。最近でこそウェブサイトから情報が取れるようになりましたが、現地に着いて初めて、こんな企画があったのか、ということが多々あります。ぜひ一般参加者に向けて幅広く、また詳細な情報提供をお願いします」（ライオン高橋）

「福岡フォーラムには、ぜひ多くのメンバーと共に参加したいと思います。毎回のことですが、開会式では式の最中に参加者が次々と会場を去ってしまい、肝心の国際会長スピーチの頃には空席ばかりで何ともお恥ずかしい状態です。最後まで会場にいてもらえるよう、式典の簡素化なども考慮してほしいです」（ライオン寒河江）

開会式の途中退席、セミナー参加者の少なさは、フォーラムの度ごとに指摘されることだ。アメリカやヨーロッパのフォーラムはセミナーがその中心で、多彩なテーマで課題を学び考える場であるのに対して、OSEALではお祭り気分が先行している。多言語地域のため、コミュニケーションに困難が伴うのは事実だが、原因はそれだけでないはずだ。

今フォーラムの参加者は6千人余り。次回の福岡フォーラムには日本のメンバーを中心にそれを大きく上回る参加者が集うのは間違いない。半世紀の節目をフォーラムの意義を問い直す時期と捉え、日本から新たな意義あるフォーラムの姿を発信したいものだ。

# Lions on Location 世界のアクティビティ

海外のライオンズクラブは、どんなアクティビティを行っているのだろうか？ 日本ではあまり馴染みのない事業や、その国ならではの活動、更にはユニークなアイデアが光る資金調達など、国際本部が発行するライオン誌英語版に掲載された各国ライオンズのアクティビティ・リポートを紹介する。

## フィリピン

## 勝利はすべての参加者に

フィリピンのバギオシティーで行われた16キロレースのゴールでは、ランナーのタイムを告げる時計が瞬いていた。自分のタイムを知って微笑むランナーもいれば、顔をしかめるランナーもいる。特に優れた走者の場合には、その満足感は時間・距離・速度の関数によって推し量ることが出来るだろう。

しかし、一群のランナーにとって話は別である。400メートルのコースを進む二十数人の視覚障害児への大きな声援は、スピードではなく気力に対して送られていた。ライオンズを始めとするボランティアが彼らと手をつないだり、横を走りながら耳元に励ましの言葉をささやいている。レースの共同委員長、ライオンジェフ・ングは次のように語る。

「実際には、彼らはゴールを見ることは出来ません。しかし心の目には、完走しようとしている自分の姿が映っていたはずです」

障害を持つランナーの姿に、ジングル・メラニー・クゥ・マルケスの胸は高鳴った。マラソンを趣味とするマルケスは、このレースのもう一人の共同委員長である。彼女の娘、ダニエル・ルイーズは心臓に欠陥を持って生まれ、片方の目が見えず耳も聞こえない。ダニエルはフィニッシュ・ラインのそばから声援を送り、ランナーにゴールが近いことを知らせていた。

「子どもたちの顔が純粋な微笑み、達成感、自尊心に輝くのを見た時、私の心は誇りで満たされました」と、マルケスは述べている。

初開催の「アイ・ラン・コーズ・アイ・ケア（Eye Run 'coz I Care）」には700人のランナーが集まった。このレースによってバギオシティー・ホスト ライオンズクラブは6万フィリピンペソ（1380ドル）を獲得し、クラブの保健事業、北部視覚障害者協会、フィリピン赤十字社の支援、視力障害者のマッサージ師が所有するマッサージ・センターの修繕に役立てた。この事業は高く評価され、7月のシアトル国際大会では、シド・スクラッグスⅢ世国際会長（当時）から同クラブに「希望の光アワード」が贈られた。その活動が視覚障害者に対する奉仕事業の模範となったのである。

バギオシティー・ホスト ライオンズクラブは1950年、フィリピンで2番目のクラブとして結成された。会員90人のうち数人がレースに出場し、他のほとんどの会員は裏方として働いた。

Photo courtesy of The Baguio Photographers Club

## スペイン
# 明るく晴れた日に

ケニア、カバ・ムビゥニの学校に通う子どもたちに、スペインのライオンズからスポーツ・サングラスが贈られた。サングラスはスペインのアリカンテにあるライオンズ眼鏡リサイクル・センターに集められたもので、名高い写真家であるオジィ(ライ)ヘスス・ハイメ・モタがアフリカを訪問した際に届けた(この写真も彼が撮影)。

世界のライオンズは毎年、数百万個もの不要になった眼鏡を収集している。アメリカ、カナダ、オーストラリア、フランス、イタリア、スペイン、南アフリカにある17のライオンズ眼鏡リサイクル・センターに集まった眼鏡は、洗浄、分類されて、開発途上国で眼鏡を必要とする人々の元へ届けられている。視力矯正用の眼鏡の他、子どもたちの目を守るサングラスの需要も高い。よりよく見えるようになることで、学習や雇用の機会が広がり、人々の生活に大きな変化がもたらされる。

## アメリカ・ペンシルベニア州
# テーブルに新鮮な食料を

ペンシルベニア州フェニックスビルのフードバンクでは現在、人々に新鮮な食料品を提供出来るようになっている。それは「食品は環境に優しくあるべき」というライオンズの強い信念によるものだ。バレーフォージ ライオンズ(クラ)のジョセフ・マッカードル会長は、地域に支えられた農業(CSA)プログラムによる新鮮な地産農産物の利用を支持している。

CSAは農家が種々の作物畑の株を売ることで成立する。株主には三十数週間にわたり、毎週収穫の一部を受け取る権利が与えられる。マッカードル会長はこのプログラムを取り入れ、クラブで資金獲得事業を行って、フェニックスビル地域コミュニティーサービス(PCSA)フードバンクのために1株を購入した。クラブは継続的に資金を獲得しながら、困難な状況にある家庭へ新鮮な食物を提供することに手を貸している。

このフードバンクでは、一家族が3~5日分の食事を作れるよう食品を提供している。PCSAのキャロル・バーガー事務局長によれば、地産農産物は「計り知れない資源」として役立つものだ。自分では十分な食料を購入出来ない400人近くの人々が、PCSAの支援に頼っている。

「この取り組みによって彼らの食卓には毎週新鮮な食物が並べられ、栄養と健康が保たれることになるでしょう」

四つのグローバル奉仕実施キャンペーンの一つとして、2010年12月から2011年1月に行われた食料支援では、結果的に700万人以上の人々に食物が提供された。報告によれば、ライオンズはこの2カ月間に世界中で2千件の食料支援事業を行い、奉仕に費やされた時間は15万時間を超えている。ライオンズとレオは今も連日、恵まれない人々に栄養を届ける事業に取り組んでいる。

## ケイマン諸島

# ライオンズのプールにザブン!

海に囲まれたケイマン諸島では、冬の平均気温も24度と温暖。泳ぎの得意な人には天国だが、泳げない人にとっては悪夢ともなりうる。ライオンズがケイマン随一のスイミング・プールを建設、運営しているのはそのためだ。

1986年にこのプールが開かれて以来、数千人の児童が水泳プログラムを通して泳ぎを覚え、時間管理や自発性などのライフスキルを養ってきた。のみならず、後にオリンピックで戦った3人の水泳選手も輩出している。

かつて、溺死の危険性を気に掛けたライオンズは公共の浜辺で水泳大会を開催したが、その頃はドラムをつなぎ合わせてレーンが作られていた。彼らはその後、25万ドルの資金を調達してジョージタウンにライオンズ水泳センターを建設した。

グランドケイマン ライオンズクラブのジョン・E・エバンクス元協議会議長によれば、ライオンズは過去38年間、子どもたちに泳ぎ方を教えることで多くの命を救ってきた。

近隣には大きなスポーツ複合施設、四つの学校、一つの大学があり、この25メートルプールは常に活気に満ちている。水泳はケイマンで人気のあるスポーツで、付近の学校ではこのプールでの授業をカリキュラムの一部に取り入れている。「水泳センターは1年中使われています。風が強ければ海は荒れますが、プールではいつも快適です」とライオン エバンクスは語る。

ライオンズは当初、カントリー・ミ

ュージックのスターらによるコンサートを主催することで、プール建設の資金を獲得した。その後もさまざまな資金獲得事業を通して支援を続けている。

この水泳センターの理事会には、現在3人のライオンたちが名を連ねている。ライオンズはプールのメンテナンス、小さな雑用から大規模な修繕までも担当する。また、数百人の参加者が集まる水泳大会では毎年タイムキーパーを務めている。水泳大会の最後には、ライオンズがプールに飛び込む。

「これは、小さい子どもたちを勇気づけるためですが、同時にライオンズへのご褒美でもあります。私たちのクラブでは、会員の99%がスイマーです」

## フランス
# アルツハイマー病患者への支援

フランスはアルツハイマー病患者のケアにおける世界的リーダーである。政府は、研究、患者ケア、社会的支援と家族の援助に数十億ユーロを割り当てている。フランスのライオンズは1995年以来、そうした取り組みの先駆けとして家族を援助し、150のアルツハイマー病患者デイケア・センターを支援してきた。

これらのセンターは自宅介護者のストレスを和らげ、アルツハイマー病患者に社会的な環境を提供し、施設での24時間介護が必要となる時期を遅らせている。フランスでは高齢者の95%が85歳まで自宅で生活するため、デイケア・センターは特に重要だ。ライオンズがこうしたセンターに提供してきた資金は400万ユーロ（540万ドル）を超えている。

「私たちは今後も、この病気の隠された苦しみに無関心ではいられません。この取り組みは私たちのすべてにかかわるものであり、ライオニズムの精神にかなったものです」

ライオンズ・アルツハイマー・コーディネーターのライオンジェラール・ラコートは述べている。

フランス中東部のサンベルナール・バル・デ・ソーヌ ライオンズクラブは、地元のアルツハイマー病患者デイケア・センターを支援するための資金獲得事業としてアート・フェア（写真）を開催。48人の芸術家、画家、彫刻家がそれぞれの才能を役立てた。

## ドイツ
# プリティ・イン・ピンク

ドイツ初の女性ライオンズクラブでは、ピンクのドラゴンボートをこぐことで乳がんと闘っている。ホフハイム・ライン・マイン ライオンズクラブはこの致命的疾患への認識向上を目指して、ピンクのオールを手に水路へとこぎ出す。

現在、世界的な運動となっている「ピンク・パドラーズ」は、1996年にカナダで始まった。そのきっかけは、ボートを繰り返しこぐことでリンパ浮腫の可能性を減らせると、当時の研究者が発見したことである。リンパ浮腫は乳がん放射線治療の副作用として頻発するが、組織の蓄積と体液の鬱滞が腕、乳房、胸部の腫れを招くのである。

92年に結成されたこのクラブでは、主に恵まれない女性や児童の支援に取り組んできた。乳がん事業では政府保健当局と協力している。

## マルタ
# 紙魚と闘うライオンたち

1772年から93年に掛けて刊行された『ホルタス・ロマヌス（Hortus Romanus）』は全8巻の植物版画集である。極めて希少であることから、アメリカ議会図書館や大英図書館でも全巻はそろっていない。カラー版は300部のうちほんの一握りであり、マルタ国立図書館は7巻を所蔵しているが、書物を食べる紙魚（昆虫）が重大な損傷を引き起こしている。

そこで、スリエマ ライオンズクラブが登場する。このクラブでは国家図書修復事業に着手した。国立図書館では希少本を修復する資金が不足していたため、ライオンズは国の文献的財産の損傷に対する認識を促し、図書修復への資金提供者を探し求めた。

彼らは企業に働き掛け、ドイツの欧州NGKスパークプラグ社とイタリアの潤滑油製造業フラテッリ・ガルバリーニ社から、3巻を修復するための資金援助を確保した（4巻は修復済み）。

現在、クラブは更に国立図書館所蔵の希少本24冊の修復を支援している。

「私たちはただ母国への愛情から、このように大規模な事業に乗り出したのです」と、アルフレッド・ミカレフ・アタード会長は述べている。

修復作業は教育省、ヘリテージ・マルタ、国立図書館と協力して進められている。他の企業もライオンズの後に続いている。マルタ航空はフランス語のシェークスピア全集20巻を修復することに同意した。国立図書館その他の政府図書館から貸し出される図書の数は、2010年当初からの7カ月間に13%も増加している。このこともまた、ライオンズが書物の重要性への認識向上に成功していることを示している。

## オーストラリア
# 洪水の後に続いた援助の波

2010年12月と翌1月、オーストラリア史上最悪の洪水がクイーンズランド州を襲った。押し寄せた水は両親の腕から子どもをさらい、少なくとも35人が

死亡した。フランスとドイツに相当する面積が水没し、損害は300万オーストラリアドル（304億ドル）に上ると推定されている。

ライオンズは土嚢を詰め、被災者と救助隊員のために炊き出しを行い、その後速やかに資金獲得に着手した。彼らは洪水に見舞われた同胞が少しでも日常に近い生活に戻れるよう懸命に作業に取り組んだ。

自分たちの住むテオドールに洪水が迫っていることに気付いたスペンサー・ローズ元地区ガバナーと夫人のライオンジャネットは、家族や友人たちと避難する代わりに、緊急作業員のために炊き出しを行った。その後ようやくゴルフ場のクラブハウスへと避難し、床に敷かれたマットレスの上で眠った。ライオンスペンサーは他の人々と何日もボートに乗り込み、援助物資を配布し慰めの言葉を掛けた。

ライオンズは使えるものすべてを資金獲得に役立てた。ヤラムで農家をしている会員は家畜を競売に掛け、農業仲間が飼料と柵の材料を買えるようにした。ローブの会員は、「取れたての大きなザリガニ2匹」を当選賞品にして662ドルの資金を得た。会員たちはまた、黄色や赤の目につく募金箱を持って街頭や商店街に繰り出した。

オーストラリア・ライオンズ基金は、がれきの撤去、食料、衣類、寝具、医薬品、洗面用具、学用品のために20万ドルを提供した。LCIFは緊急援助金4万ドルを交付し、ライオンズが献金を行えるよう指定献金口座も設けた。

ロックハンプトンのライオンバーナデッタ・ハリスは、次のように述べている。

「恐ろしい経験でしたが、オーストラリア人同士の思いやりを目にすることが出来ました。その中心にライオンズがいたことに、私は誇りを感じています。ライオンズはいつものように黙々と控えめに作業を続けながら、励ましの笑顔を忘れずにいたのです」

## 資金獲得アクティビティ

### イタリア
### ATM利用の斬新アイデア

ハイチの子どもたちに義足を提供するため、北イタリアのライオンズは簡単に資金を獲得出来る革新的方法を見つけた。それは現金自動預け払い機（ATM）の画面で1ユーロの寄付を呼び掛ける方法だ。

108・TA1地区のライオンズは、南チロル地方最古の銀行スパーカッセ・カッサ・ディ・リスパルミオ・ディ・ボルザーノの120支店に置かれた170機のATMで寄付を行えるよう手配した。1年弱で4万ユーロ（5万6千ドル）が集まり、各クラブも資金を提供して、総額は30万ユーロ（42万ドル）に達している。

ライオンズはこれまでに200の義足をハイチに届けた。彼らの目標は2010年1月の大地震で足を失った子どもたち1500人を支援することである。炭素繊維製の高品質の義足はイタリアで作られている。

ハイチでは二つの非営利団体がライオンズと協力し、支援を受ける子どもの選定と調整の監督に当たる。また、ある修道会も後方支援を担っている。地区では会員の医師を派遣して調整に手を貸すことにしている。

### イギリス
### ケーキ事業の甘い成功

みんなにケーキを食べさせよう。それは、イギリスのライオンズが地域社会を改善している甘い方法である。この事業は一つのクラブから始まったが、現在では60余りのクラブが参加している。これまでに12万4千個近くのケーキが販売され、満足した顧客の好意によって、1個当たり2・50ドルの純益が生まれている。

## パキスタン
# 孤児たちを見守り育む

ダル・ウル・アトゥファル（子どもの家）の43人の孤児たちは、母親が出産時に死んでしまったり、親が子どもを養うことが出来ないために、不本意ながら孤児院で暮らすことになった。中には、施設に来る前に物乞いをしながら路上を放浪していた少年たちもいる。

彼らに等しく分け与えられているのは、ペシャワール・ガルバハール ライオンズクラブの善意と寛容だ。会員たちは衣服や靴、おもちゃ、スポーツ用品、学用品を提供し、施設の清掃を行っている。医師の会員は、24時間態勢で病気やけがの電話連絡に対応している。祭日には子どもたちをファストフード店に連れて行き、一緒にマジック・ショーを見たりする。

会員55人のクラブには、経営者や企業の役員、技術者、弁護士などが在籍している。初代会長で元地区ガバナーのライオンアサド・アシュラフによれば、それぞれの事情で例会にあまり出席出来ない会員も多いが、そうした会員でもこのアクティビティには必ず参加するという。5年前にクラブが孤児院支援に着手したのは、簡単な決定だった。4人の会員が、自らも孤児だったのである。

会員の多くは孤児たちと一緒に遊ばせるために自分の子どもを孤児院に連れてくる。「我々の子どもに、自分がいかに恵まれているかを理解させる機会にもなります。彼らには大きな変化が起き、慈善活動に積極的になりました」とライオンアシュラフは話す。

当初は小規模だった事業は、105・SE地区が「ケーキ担当者」を任命したことにより、組織的で緻密な取り組みへと発展した。ケーキの製造はイギリス一流の高級食品メーカーが行っている。

事業の発案者ライオンジョン・セイルズは10年前、旅行中にオーストリアのライオンズによるケーキ事業について知った。所属するワージングライオンズクラブは、最初の年に3700個のケーキを販売。その利益によってワージング病院の小児病棟に薄型テレビ13台を購入した。

## スペイン
# 崖に挑むライオンズ

「あなたの勇気を試してみませんか?」。参加者35人が、モライイラの海に向かう絶壁100フィートを垂直に降りる勇気を見せた。このアプザイレン（懸垂降下）イベントを企画したのは、ジャロン・アンド・オルバ ライオンズクラブ。参加者はスポンサーから5719ユーロ（8239ドル）を獲得し、その資金を病院設備の充実などに役立てた。このクラブは会員のほとんどをイギリスからの退職移住者が占めている。企画者のライオンアンドレア・エイチソン（写真）は「恐怖を感じると同時に気分が浮き立ちました」と言う。クラブはアドベンチャー・エクスペリエンスという企業と契約して装備、ガイド、保険を用意し、費用は投資顧問会社が負担する。

今年度は更にハードルを上げて、タンデム・スカイダイビングに挑戦することにしている。19人が熟練ダイバーとペアを組み、1万フィート上空の飛行機から飛び降りる。

「私たちの幸運を祈ってください」とライオンエイチソン。

# 被災地のライオンズは今

332-C地区（宮城県）

## 被災地に元気を！ 復興屋台村オープン

11月12日、宮城県気仙沼市に飲食店などが軒を連ねるプレハブ造りの仮設店舗「復興屋台村・気仙沼横丁」がオープンした。震災前は駐車場だった土地を市が借り上げ、中小企業基盤整備機構がプレハブ店舗を建設。ライオンズクラブでも厨房設備などを提供した。

気仙沼全体では約7割、屋台村が設置された南町はほぼ100％の飲食店が津波で流された。今回、入居したのはご当地グルメ「気仙沼ホルモン」や寿司、マグロ料理、ラーメン、うどんなどの飲食店の他、鮮魚店や八百屋などの22店舗。このプロジェクトは、これら店主の復興支援だけではなく、市民や漁業関係者、観光客、ボランティアなどが集まる拠点を作って、港町ににぎわいを取り戻すことを目指している。

こうした趣旨に賛同した332-C地区（宮城／中嶋慶次地区ガバナー）でも屋台村の支援を検討。主に厨房関係の設備を提供する案をまとめ、東日本大震災復興支援対策本部を通して、LCIFに東日本大震災大規模事業交付金を申請。秋季国際理事会後に国際会長とLCIF理事長の話し合いにより、追加書類の提出などの条件付きながら承認された。

復興支援にかけるライオンズの思いを書いたシートも設置された

プレオープン・イベントであいさつをする中嶋地区ガバナー

気仙沼では更に、中心地だった八日町でも約50店舗の仮設商店街の計画がある他、岩手県の釜石市、大船渡市、陸前高田市でも同様のプロジェクトが動いている。これらにも大規模事業交付金を使った支援が検討されており、被災地に元気を取り戻してもらう計画に、ライオンズも加わっていけそうだ。

気仙沼横丁には地元気仙沼ライオンズクラブと宮城県・富谷ライオンズクラブが支援を行っている他、「提灯の灯りで真っ暗な街に温かな明かりをともしたい」という屋台村事務局の思いに共鳴した334-B地区（岐阜／三重）の会員有志が、提灯を贈る運動を展開。提灯は日本一の産地・岐阜の㈱浅野商店（藤田宜良社長：岐阜南／浅野有誠専務：岐阜長良川）から原価以下で提供を受けるなど、支援の輪が広がっている。（取材／鈴木秀晃）

東日本大震災

## 宮城県・気仙沼ライオンズクラブ

# Re Start 新たなる出発（たびだち）

多くの気仙沼市民が詰め掛けたヌマフェス2011

気仙沼市は宮城県北東端、太平洋に面し、古くは隣接する岩手県陸前高田市などと共に気仙郡を構成していた。東日本大震災では、全世帯の36％に当たる約９５００世帯が被災、死者１０２８人、行方不明者３６５人（11月17日現在／気仙沼市発表）という甚大な被害を受けた。

気仙沼ライオンズクラブ（高田俊孝会長／77人）は１９６１年、仙台青葉、石巻両クラブのスポンサーで誕生。そこからちょうど50年という記念すべき年に、震災に見舞われたことになる。全会員の安否が確認されたのは6月中旬。当時80人の会員中73人が被災、ただ一人のチャーター・メンバーだったライオン畠山赳夫と、２００９・10年度332・C地区ガバナーを務めたライオン千葉宏一の2人の重鎮を失ってしまった。こうした状況を受け、クラブでは早い段階で活動休止を決定。機能を失ってしまったクラブ事務局も閉鎖した。

が、そんな中、各地のライオンズから激励や援助が寄せられるようになり、それと共にクラブの意識も変化していった。

「全国のライオンズからの支援が後押しとなって、一歩を踏み出すことが出来ました」

と、菅野正浩幹事は話す。実際、震災から約1カ月の間に姉妹クラブの山形県・寒河江ライオンズクラブ（3月27日）、宮城県・佐沼、中田両クラブ（3月31日）、大阪生野ライオンズクラブ（4月12日）が、炊き出しや支援物資を携えて駆け付けてくれた。その後も、北は北海道から南は鹿児島県まで、すべての複合地区を網羅する20クラブを超えるライオンズから、さまざまな支援が寄せられた。

その間、震災以来閉鎖していたクラブ事務局を6月9日から再開。やむなく一度解雇した事務局スタッフにも戻ってきてもらい、気仙沼ライオンズクラブ再生に向けてスタートを切った。更に新年度からは「Ｒｅ Ｓｔａｒｔ～新たなる出発（たびだち）～」を旗印に掲げ、7月20日に震災後初例会を開催。「鎮魂と絆」をテーマに、気仙沼に元気を与えようと企画された共催イベント「ヌマフェス２０１１」では約４５００人の入場者を得て、大成功裏に終えることが出来た。

海に近い市街地では地盤沈下による冠水が恒常的に見られる

現在、例会は毎月第3水曜日に開催。当初は市街地にある会員の会社の会議室で開いていたが、地盤沈下の影響で周辺が冠水するようになったため、最近は山側にある三陸新報社（社長：ライオン浅倉眞理）の会議室を借りている。こうして例会や活動を重ねるうち、自分たちが上を向き率先して歩いていかなくてはとの思いが強くなり、2度とない50周年という節目を祝いたいという声も出始めた。そして11月の理事会で正式に、「50周年を祝う会」を12月21日、津波を免れた市内のホテルで開くことを決め、新たなる出発に向けリスタートを切ることになった。（取材／鈴木秀晃）

■国際理事
秦　従道
（宮城県・仙台コア）

# 重要な組織的「日本の声」集約システムの確立！

皆さんにとってライオンズクラブ国際協会や国際本部との距離感はどのくらいのものでしょうか?

私自身、国際理事に就任するつい最近までは、何かお役所的なというか、極端な話、上意下達の「お上」的なイメージを抱いていました。

国際役員である地区ガバナーを経験しながらその程度の認識だったのか、とお叱りを受けるかもしれませんが、正直そんなところだったと言えるでしょう。

そのような状況下でも、個人や地区など個別レベルでは、国際本部とコミュニケーションを取り合っているところもあるでしょう。が、多分そのほとんどは本部に対する問い合わせではなかろうかと思います。例えばLCIF交付金の問い合わせや申請手続き、会則の解釈の問題などが容易に想像されます。

さて本題ですが、では国際協会や国際本部には、日本からの組織的な意見や提言はどのくらい届いているのでしょうか。

例えば、国際会則の改正案を日本の複合地区年次大会で決議して国際理事会へ上程したなどという話はあまり聞きません。

しかし建設的な提案であれば、これらはあってしかるべきではないでしょうか。

ただ実際のところ、この手順で八複合地区の意見を集約・調整し、一つの提案として国際協会に届けるのは、実務的に大変なことだと感じます。

そこで実はもっとシンプルな方法があるのです。それは「日本の声」を正しく集約し、国際理事の手で国際理事会に届けるルートです（もちろん既にご存じのライオンも多いと思いますが）。

私は2011年8月9日～12日に国際本部があるアメリカ・イリノイ州オークブルックで開催された新任理事オリエンテーションと、10月3日～10日に香港で開催された秋の国際理事会に出席してきました。そこでの体験から、「日本の声」集約の重要性をより一層深く認識させて頂きました。

私が国際理事会で所属している大会委員会の経験から推測すると、国際協会・国際本部の幹部の皆さんは、真剣に世界の会員の声を聞こうという姿勢を持っています。

ここでのポイントは正しい「日本の声」の集約をいかに行うかです。つまり、どうしたら正しい「日本の声」を集約出来るのかという問題です。

実は我々は既に、最適のシステムを持っています。

それはライオン誌日本語版事務所で運用しているウェブマガジンのアンケート・モジュールと、オンライン・マンスリー報告システムeMMR ServannAのアンケート機能です。これらを活用すれば全国の各クラブから一気にアンケート形式で意見を集約することが出来ます。これをしかるべき機関で分析・集約すれば、立派な「日本の声」になるのではないでしょうか。

そのデータをバックにすれば、私も国際理事として力強く意見を開陳することが出来るというものです。

今後、各関係機関と調整を図りながら「日本の声」集約システムの構築に尽力していく所存ですが、併せて皆様のアドバイスなどもお待ちしております。

ライオンズニュースカセット

# NEWS CASSETTE

## シド・スクラッグスLCIF理事長が来日

シド・スクラッグスⅢ世LCIF理事長は11月20日、東日本大震災の被災地・宮城県石巻市を訪問した。石巻は今回の震災で、死者3279人、行方不明者669人（11月25日現在）と、最大の人的被害を出した。理事長は石巻市街地が見渡せる日和山で犠牲者を弔い献花をした後、壊滅的な被害を受けた門脇地区の被災状況を視察。その後、児童108人のうち74人が死亡または行方不明となった大川小学校を訪れ献花を行い、ジュディ夫人と共に子どもたちの冥福を祈った。被災地訪問を終えたスクラッグス理事長は、「自然の力というのは本当に恐ろしいものです。しかし、そうした自然災害よりも強い力があります。それは私たち一人ひとりの意志の力です。そしてそれらが一つにまとまることによって、私たちは災害を乗り越えていくことが出来るのです。国際協会としても一致団結して、日本の復興を支援していきたいと思います」と語った。

22日には東京都千代田区のホテルニューオータニで、スクラッグス理事長を迎えたLCIFセミナーが開催され、全国から380人の会員が出席した。セミナーではまず、日本のライオンズによるLCIF交付金事業や、ライオンズクエスト・プログラム導入校の授業風景など、映像でLCIFの成果を確認。続いて行われた講演でスクラッグス理事長は、「東日本の被災地を始め、世界中の助けを必要とする人たちからの『ありがとう』の言葉を、皆さんに伝えにきました」と述べた。その後、LCIFに著しい貢献を果たした会員に対する表彰が行われた。

## 第４回東日本大震災復興支援対策本部会議

11月22日、東京のホテルニューオータニで、第４回東日本大震災復興支援対策本部会議（山浦晟暉本部長）が開催された。この日は当初、議長連絡会議の開催が予定されていたが、11月７日に335複合地区の元協議会議長が業務上横領容疑で逮捕されたことを受けて、急きょ対策本部会議に切り替えたもの。

会議ではまず、335複合地区の新宅元之議長から、元議長は現時点も拘留中であること、元議長所属の335・B地区では名誉顧問全員が辞任したことが報告され、ライオンズクラブ国際協会の名誉と信頼を傷つけたことに深謝の意が示された。その上で、「ライオンズの『ウィ・サーブ』の精神には１点の曇りもない。今後は未来に向けて全力を尽くしていきたい」と述べた。また山浦本部長からは、本件に関して11月10日に臨時の八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議が開催され、その後、国際理事３人と八複合地区協議会議長の連名で、ライオンズクラブ会員に宛てた書簡を各準地区へ発送したことを報告。続いて、332複合地区から申請が出されているＬＣＩＦ交付金事業などの審議が行われた。会議の終盤には来日中のシド・スクラッグスＬＣＩＦ理事長が会場を訪れ、ＬＣＩＦ交付金の申請に際しては、適正な金額であること、ＬＣＩＦのガイドラインに沿っていること、財団の外部監査に必要な領収書を提出することの３点を順守するように求めた。

## ＯＳＥＡＬフォーラムの主な決議事項

11月24～27日までフィリピン・マニラ首都圏パサイ市で開催された第50回東洋・東南アジア・ライオンズ（ＯＳＥＡＬ）フォーラムで、ＯＳＥＡＬ地域の２０１２～14年国際理事候補者（定数３人）の推薦が決議された。推薦を受けた候補者は、台湾のチャン・ユイ・タイ元地区ガバナー、韓国のタイヤン・キム元地区ガバナー、日本の武久一郎元協議会議長（336複合地区／徳島城山ライオンズクラブ）。ライオン武久は76年チャーター・メンバーとして徳島城山ライオンズクラブに入会、80年度クラブ会長、94年度ゾーン・チェアパーソン、99年度リジョン・チェアパーソン、09年度地区ガバナー、10年度協議会議長を務めた。２０１３・14年度国際第２副会長には、アメリカ・アリゾナ州の元国際理事、ジョー・プレストン候補者の推薦を決議。また、ＯＳＥＡＬフォーラム開催のローテーションに中国を加え、２０１８年の開催地を中国とすることが決議された。これにより今後は、フィリピン、日本、マレーシア／シンガポール、韓国、タイ、香港、台湾、中国の８カ国のローテーションで開催されることになる。

次回２０１２年のフォーラム開催地は福岡で、11月８～11日にマリンメッセ福岡を主会場に行われる。13年の開催地はシンガポール。

## 福岡で開かれたリーダーのスキルを学ぶ研究会

11月10日～13日、福岡市のヒルトン福岡シーホークでＯＳＥＡＬ地域の上位ライオンズ・リーダーシップ研究会が開催された。参加者は日本語クラスが34人、中国語クラス24人、韓国語クラス18人、英語クラス15人で、各クラス３人の講師が指導に当たった。日本語クラスの講師は、牧田健一元330・Ｂ地区ガバナー、村上紘一郎元335・Ｃ地区会計、北島建則元337複合地区ガバナー協議会議長の３人。国際協会のリーダーシップ部が開くこの研究会は、副地区ガバナー就任前の会員を対象に、地区レベルのリーダーを育成することを目的に、プレゼンテーションの技能や対立の解消など指導者に必要なスキルを学ぶカリキュラムが組まれている。そのため海外からの参加者は若いメンバーが目立つが、日本は特例的に第１、第２副地区ガバナーの参加が認められており、

今回も9割が副地区ガバナー。参加者にとっては、ガバナー就任を前にした情報交換の場となっている。以下は参加者の感想。

「カリキュラムの内容が幅広く多くのことを学び、更に各地区でのサクセス・ストーリーや、今後のビジョンを語り合うことが出来ました。3人の女性第1副地区ガバナーが参加されていて、女性リーダーとしての経験やご苦労など生の声をお聞きしたことも有意義でした」（渡辺修331・A地区第1副地区ガバナー）

「講師の皆さんの分かりやすい講義で、忘れていたことを思い出したり、新しい知識を得たり、充実した研究会でした。小グループのディスカッションは参加者が打ち解ける非常に良い手法だと感じました。一つ残念だったのは、メンター・プログラムに関する講義の中身が薄かったことです。次年度ぜひ導入したいと考えており、プログラムについて学べると思っていましたが、期待した内容ではありませんでした」（瀧北美智子335・D地区第1副地区ガバナー）

## 震災復興支援を兼ねて、神戸マラソンへ協力参加

11月20日、日本のマラソン発祥の地と言われる神戸で第1回神戸マラソンが開催され、335・A地区（東兵庫／団英男地区ガバナー）は、給水ボランティア隊として協力参加した他、震災復興協力イベントとスペシャルオリンピックス支援も兼ねた「ふれあいフェスティバル」を企画運営した。今大会のテーマは「感謝と友情」。阪神・淡路大震災からの復興支援への「感謝」を示し、国内外の参加者と友情の輪を広げようという大会で、16年前の震災被災地を巡るコースでは約52万人がレースを見守った。東日本大震災の被災地から出場したランナーは肩に緑色のリボンをつけて走り、沿道から温かいエールが送られた。335・A地区の給水ボランティア隊は106人の応募者で結成され、六つのグループに分かれて給水を担当。スタートから30分で2万人以上のランナーが走り抜ける中、水浸しになりながら懸命にカップを手渡した。このボランティアには、クラブ会員だけではなく事務局員やレオクラブ会員の応援参加もあった。一方、「ふれあいフェスティバル」は鉄人28号の震災復興モニュメントが立つ神戸市長田区の若松公園で開かれ、会場には40余りのブースが出店。また20チームほどのパフォーマンスの団体が出演し、来場者は1万人以上に上った。さまざまな飲食店が出店されている中、長蛇の列が出来たのは、岩手県大槌町から参加した皆さんが作るホタテ、ワカメ、メカブなど海の幸たっぷりの「磯ラーメン」。開会式では代表者の八幡幸子さんから、「神戸の復興した姿を見て、いずれは大槌も奇麗な町になるのかと思うと楽しみ」とのメッセージが述べられ、会場は大きな感動に包まれた。

## 創設者生誕日を記念するLCIFウィーク

1月13日はライオンズクラブ国際協会創設者メルビン・ジョーンズの生誕日。1879年に誕生したジョーンズは、1917年、38歳で協会を発足させた。国際協会は、その生誕日を含む1週間をLCIFウィークと定めている。

LCIFに千ドルの献金をした人には、創設者にちなんでメルビン・ジョーンズ・フェロー（MJF）の栄誉が授与される。2011年11月末日現在のMJFに関するデータは以下の通り。

〈日本〉
MJF数：9万2095人（世界33万595人）
100％MJFクラブ数：152クラブ（世界304クラブ）
200％MJFクラブ：北海道・札幌アカシア、札幌オーロラ、札幌グリーン、札幌中島、三重県・四日市みたき、京都洛中、京都白川
300％MJFクラブ：愛知県・名古屋本丸、名古屋サウス、奈良ウエスト
400％MJFクラブ：京都御室
＊会員全員がMJFになったクラブは100％MJFクラブと呼ばれる。200％MJFクラブは全員が2回以上のMJF献金をしているクラブ

## 会議録

**第4回ライオン誌日本語版委員会**（11月2日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：山浦晟暉、秦従道、高田順一各国際理事、宇田川雄弘、後藤忍、種市一二、高濱正敏、竹本實生、小田邦雄、澁田繁晴各委員、小峰理孝議長、荘英隆、辰巳博昭〈オンライン〉、小柴登司〈オンライン〉各ITアドバイザー）
①ライオン誌日本語版事務所の運営②オンライン報告システムeMMR ServannA／ライオン誌ウェブマガジン③11月号（10万3000部発行）出来④12月号記事内容の確認⑤2012年1月号以降台割（案）と主要記事予定⑥その他

**臨時複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（11月10日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：井ノ浦義明、宮田謙、萩原光義、岡本正治、新宅元之、迫越正彦、椿幸雄各議長、武藤博昭議長代理、山浦晟暉、高田順一、秦従道各国際理事）
①報道記事についての説明②今後の対応③ライオン誌からの「支援金使途の掲載依頼」について④（332、333複合地区）一時金の使途について⑤その他

**第4回東日本大震災復興支援対策本部会議**（11月22日／ホテルニューオータニ／出席者：山浦晟暉、高田順一、秦従道各国際理事、小峰理孝、井ノ浦義明、宮田謙、萩原光義、岡本正治、新宅元之、迫越正彦、椿幸雄各議長、中居雅博、髙橋晴彦、中嶋慶次、久保田善九郎、野川亘各地区ガバナー）
①LCIFカソンドラ課長から要請された案件②LCIF資金支援のガイドライン③332複合地区からの申請（前回保留分）④その他⑤シド・L・スクラッグス前国際会長（LCIF）あいさつ

## 新結成クラブ

千葉県・八千代中央（出倉幸夫会長）▼11月13日結成▼スポンサー／八千代

## 訃報

■元国際役員
ライオン古郡保郎（神奈川県・藤沢湘南）
11月18日死去、74歳。07年度330複合地区ガバナー協議会議長、330・B地区ガバナー。

■献眼
8月＝ライオン野村徹夫（京都うずら野）10月＝ライオン平林治郎（愛知県・稲沢）／ライオン尾関弘（愛知県・瀬戸）

## 国際大会開催予定

12年：韓国・釜山／6月22日〜26日
13年：ドイツ・ハンブルク／7月5日〜9日
14年：カナダ・オンタリオ州トロント／7月4日〜8日
15年：アメリカ・ハワイ州ホノルル／6月26日〜30日
16年：日本・福岡／6月24日〜28日
17年：アメリカ・イリノイ州シカゴ／6月30日〜7月4日

# GLT通信

## GLTとは何？ どんな活動をするの？ リーダーに尋ねた四つの質問

回答／山田實紘GLT副会則地域リーダー（国際理事会アポインティー／元国際理事／岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ）

**Q** GLTとは何ですか？　またその目的は？

**A** リーダーシップはこれまで、MERLプログラムの中の一つとしてその役割を担ってきましたが、MERLの組織が複雑であることから、よりシンプルで機能的な組織とするため、3年前に発足したグローバル会員増強チーム（GMT）、そして今年度から始動したグローバル指導力育成チーム（GLT）の二つのチームに改編されました。これまで会員増強が強力に推し進められてきましたが、その一方で質の低下が懸念されています。GLTは質を保ち、高める役割を担い、今後は二つのチームが連携して質と量の両方の向上を図っていきます。質と量は一方が高くなると、もう一方が低くなるものだという考え方があります。確かにバランスを取るのは難しいことですが、私は質が高くなれば、それが評価されて量も増えると考えています。

**Q** 日本の会員の多くは仕事上や地域において既にリーダーの立場にありますが、更に指導力を養う必要があるのでしょうか？

**A** 国際協会のプログラムや指針は全世界のライオンズを対象にしたものので、日本向けに作られているわけではないことを、まず理解して頂きたいと思います。それぞれの国に合った運用をしていく必要があります。日本の会員に企業のリーダーや地域で指導的役割を果たす人が多いのは確かですが、本当にリーダーシップがあるかというと、必ずしもそうではないと思います。日本には「赤信号みんなで渡れば怖くない」という横並びの平等主義があって、突出したリーダーが出てきにくい傾向にあります。私の年代では学校でも社会でも、リーダーシップについて教わる機会は全くありませんでした。私が初めてそれを学んだのは、1996年に受講した地区ガバナー・エレクト・セミナーでのことです。この時には大学教授による講義があり、リーダーシップにはトップダウン型とボトムアップ型があることなどを教えられ、なるほどと思いました。そうしたリーダーシップに関する知識やスキルは、ライオンズだけでなく、仕事や社会生活の中でも役に立つはずです。

**Q** GLTは具体的にどのような役割を果たすのでしょうか？

**A** GLTには大きく分けて二つの役割があります。研修や教育を通じて現在のリーダーが十分に力量を発揮出来るようにすること、そして、各レベルにおいて、将来のリーダーとなる人材を発掘し、育成することです。

**Q** 単一クラブでは、どんなことをすればよいのですか？

**A** クラブ・レベルでは、「クラブ向上プロセス（CEP）」プログラムに則ったワークショップを実施したり、「ライオンズ・メンター・プログラム」を取り入れることによって、クラブと会員の向上が図られます。各地区にはGLT地区コーディネーターがおりますので、クラブの役に立つツールや情報の提供を始め、アドバイス、助力があるはずです。GLTのもう一つの役割、リーダーの適性がある人材を見いだし、育てていくことは、クラブ、地区、そして協会の将来を左右する非常に重要な仕事です。現在リーダーの立場にある人が、自分に追いつき、追い越していくような人材を育てなければ組織の発展は望めません。無論、新たな芽を摘むようなことは、断じてあってはなりません。クラブや地区のリーダーの皆さんには、将来を担う有望な若いリーダーを発掘し、育てて頂きたいものです。

9. インドにおける財団の財務代表名を更新。

**リーダーシップ委員会**

1. 2012年地区ガバナー・エレクト・セミナーにおいて韓国語グループと英語グループを担当するグループ・リーダーとして、Byeong-Deok Kim元国際理事及びRajinder Pape Sembi元協議会議長をそれぞれ承認。
2. 韓国・釜山における2012年地区ガバナー・エレクト・セミナーのスケジュール及びカリキュラムを承認。
3. 地区ガバナー・エレクト・セミナーのグループ・リーダーへの経費支払いに11日分のホテル代と食費が含まれるよう方針を改訂。

**長期計画委員会**

1. 第1副会長の翌年度のテーマ公開日に関して、理事会方針書第3章4項(c)を改訂。

**会員増強委員会**

1. タジキスタンをライオンズクラブ国際協会の207番目のライオンズ加入国として承認。
2. ギニアビサウ共和国をライオンズクラブ国際協会の208番目のライオンズ加入国として承認。
3. 理事会方針書を改訂し、「Macau」から「Macao」に綴りを変更。

**PR委員会**

1. オンラインバナー及び検索連動型広告の担当業者として、BVKアドバタイジング社と契約することを承認。
2. ソーシャルメディアに関するセミナー実施用に、エリア・フォーラムに対し2千ドルを上限とする資金の給付を承認。
3. 国際青少年音楽コンクールを中止。
4. ライオン誌の収支報告がオンラインで入手可能であるため、この報告書に関する理事会方針書第17章A項4(h)を削除。
5. GMT／GLTメンバーの役職順位を23番目に含めることによりプロトコール方針を変更。
6. 国際リーダーシップ・アワード及び会長感謝状のレオへの授与を承認。

**奉仕事業委員会**

1. ライオンズクラブ国際協会及びアガ・ハーン財団間の協力提携締結を確認。
2. 2011-2012年度及び2012-2013年度レオクラブ・プログラム諮問パネルのメンバー及び補欠員を務めるレオ及びライオンを指名。
3. 2012年執行委員会会議の開催時期に合わせて2日間のライオンズ眼鏡再生センター会議を国際本部で行うことを承認。
4. 理事会方針書のライオンズ環境保全写真コンテストに関する箇所の変更を承認。

上記決議事項のいずれかに関する詳細は、国際協会公式ウェブサイト(www.lionsclubs.org)でご覧頂くか、国際本部の担当各部までEメールでお問い合わせください。

## 国際理事会の決議事項要約

中国・香港
2011年10月4日～7日

### 監査委員会

1. 2011年6月30日付けのライオンズクラブ国際協会及びライオンズクラブ国際財団監査報告を検討した上で承認。

### 会則及び付則委員会

1. 301-A1地区（フィリピン）のManila Absoluteライオンズクラブ及びManila Virtureライオンズクラブにより提出された地区の協議会議長候補者選挙にかかわる会則関係抗議申し立てを却下し、2011年4月16日当日またはその頃に開催された地区キャビネット特別会議における選挙を支持。更に、Robert B. Roqueを、2011-2012年度の残る任期を務める301複合地区協議会議長として宣言。
2. 財団名、ウェブサイト、ドメイン名に関する方針の明確化、かつ簡素化を図るため、理事会方針書の登録商標方針を改訂。
3. クラブの代議員数算出の対象となる会員カテゴリーを明確にするため、理事会方針書の会員カテゴリーの記載個所を改訂。

### 大会委員会

1. 2012年釜山国際大会での公式行事予定を改訂。
2. 2012年釜山国際大会における日割り許容額を制定。

### 地区及びクラブ･サービス委員会

1. 2012年国際大会閉会時に有効となる下記地域の地区再編成案を承認。
   111-R地区（ドイツ）
   111-SW地区（ドイツ）
   354複合地区（韓国）
   356-B地区（韓国）
   307-B地区（インドネシア）
   18複合地区（アメリカ・ジョージア州）より提出された地区再編成案を承認。これは2013年国際大会閉会時に有効となる。
2. 2011-2012年度中央・東ヨーロッパ・イニシアチブのコーディネーター・ライオンを承認。
3. 理事会方針書第9章F項2を改訂し、移行地区とは、暫定地区ではなく、国際協会月例会員累計表での報告に基づき地区における正クラブ数が35未満または会員数が1,250人未満の地区であると定義。
4. 現役及び元国際理事の成人同伴者が着用する名札の縁を、他の成人同伴者の名札と一致するよう、金色から緑色に変更。また、理事会アポインティーには、アポインティー以外の役職と、その役職の下に「理事会アポインティー」という語句及びアポインティーを務める年度が表示される適切な名札が提供されるように方針を改訂。
5. 理事会方針書第5章B項1（グッドスタンディング）で使われている「per capita tax」という語句を「due」という語句に置換し（日本語は「会費」のまま）、必要でなくなった文言を削除することにより方針を更新。この変更は2012年国際大会閉会時に発効する。
6. 第9章「地区ガバナー経費支払いに関する規定」を、GMT、GLT、CEP会議出席のための経費が事前の承認を要することなく払い戻しの対象となるよう改訂。

### 財務及び本部運営委員会

1. 黒字となる2011-2012年度収支予想を承認。
2. 2013-2014年度理事会会議経費の最終的な分析結果を、2012年1月の会議で検討を受けるべく執行委員会に提出することに同意。
3. アワードのバナーに関する方針を以下のとおり変更。
   国際協会紋章---D3DS&D110-A41556 21インチの紋章、D150-A43674 10.5インチの紋章。
4. 理事会方針書第11章E項3の銀行関連業務の権限に関して変更。

### LCIF

1. 大災害援助金を受けている被災地による他の交付金の受給資格、復興事業完了に対する期限、個人への支援、承認手順に関して、大災害援助金の規定を改訂。
2. メルビン・ジョーンズ・フェロー及びプログレス・メルビン・ジョーンズ・フェローの表彰について見直し、次のカテゴリーを指定するドネーションを表彰の対象とすることを決定。a）支援を最も必要とする分野、b）災害、c）人道奉仕、d）視力、e）青少年
3. 「ライオンズ-スペシャルオリンピックス・オープニングアイズ」プログラムを延長するため、119万3,253ドルの障害者援助四大交付金を承認。
4. はしかイニシアチブの対象国内におけるライオンズの予防接種活動への参加を支援するため、30万ドルの四大交付金（理事会主導）を承認。
5. 53件（総額259万5,761ドル）の一般援助交付金、国際援助交付金、四大交付金を承認。
6. 1件の交付金申請を継続審議事項とした。
7. 日本への用途指定資金を活用する事業案が提出されたらそれを検討して資金を割り当てる権限を、ウィンクン・タム国際会長とシド・L・スクラッグスⅢ世LCIF理事長に付与。
8. 3万ドルの視力ファースト交付金を、「2011年世界視力デー」用に承認。

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

愛知県・蒲郡、蒲郡マリン ライオンズクラブ

## タウンウォッチングで古里の再発見

写真／明人

蒲郡ライオンズクラブ（小田裕慈会長／44人）チャーターナイト50周年記念事業のタウンウォッチングは、2011年11月6日(日)の9時～14時、「蒲郡の戦国時代ゆかりの地を歩く」のテーマで、蒲郡ライオンズクラブと蒲郡マリンライオンズクラブ（浅井友行会長／46人）の共同アクティビティとして行われた。

蒲郡市を代表する史跡「上ノ郷城跡」は、鎌倉時代から戦国時代に至るまで現在の市中心地を支配した鵜殿氏が築城した城跡である。桶狭間の戦いを転機として、徳川家康の天下統一への足掛りとなった重要な城で、永禄5（1562）年に徳川家康の攻撃を受けたがなかなか落城せず、家康は忍者を用いて城内に火を放ち落城させたと言われる。城跡は市全域をほぼ見渡すことが出来る小高い丘にあり、みかん畑の間を通る細い道には歩きにくい箇所があったため、開催前に両クラブの会員で整備を行った。

タウンウォッチング当日の朝は小雨であったが、約400人もの参加者が集まり、蒲郡中央ふ頭を出発して全長約13キロのコースを歩いた。安全面を特に重視しながら、会場設営から駐車場案内、交通整理、そして史跡の説明に至るまですべてメンバーが行った。

最初のポイントは『百人一首』で有名な藤原定家の父で三河国司として竹谷・蒲形地区を開発した藤原俊成卿の銅像で、コース前半は、不相鵜殿氏の居城だった「不相城跡」にある蒲郡プリンスホテル、竹谷松平氏歴代の菩提寺「天桂院」、7世紀頃の創建と伝わる「赤日子神社」など6キロを歩いた。

途中で体調を崩したり、棄権される方も出るかと態勢を整えていたが、普段から歩き慣れている方が多いようで、予定より30分から1時間も早いペースで進んでいった。

中間地点となる「上ノ郷城跡」には昼頃に到着。昼食は各自で用意したお弁当を食べ、その後、竹谷松平氏の「竹谷城跡」や、家康が6歳で今川方へ人質として船出した記録が残る「犬飼湊跡」の後半7キロを巡った。

ゴール地点では、古き良き古里蒲郡を再発見した参加者たちの爽やかな笑顔が印象的であった。

（PR・IT委員長／尾崎隆弘）

福井県・敦賀、岩手県・陸前高田ライオンズクラブ

## 結成50周年記念事業を震災復興支援に集中

矢作小学校に贈ったコピー機を試す6年生の児童と両クラブ会長

敦賀ライオンズクラブ（壁下恒和会長／73人）は11月16日、メンバー12人で陸前高田市を訪問し、同市の小中学校15校に対する支援アクティビティの調印式並びに贈呈式を行った。これは同クラブ結成50周年記念事業で、陸前高田ライオンズクラブ（熊谷又吉会長／59人）の協力を得て実施した。

敦賀ライオンズクラブが記念事業の策定を進めていた3月、東日本大震災が発生し、クラブ内の空気は復興支援事業へ向かった。そこで、50周年記念事業部会（竹中善一部会長）は各所から情報収集を行い、最終的に332・B地区から紹介を受けた陸前高田ライオンズクラブに、1千万円の予算で被災地のニーズに合った事業企画を依頼することになった。そして両クラブの話し合いの中で、明日の陸前高田を担う子どもたちへの活動を優先させることになり、今回の全小中学校への支援を含む総額約850万円の記念事業が実現した。

「ある学校では舞台幕が欲しいと言われました。震災当時はまだ寒く、避難所となっていた体育館の舞台幕を切って、毛布代わりに被災者の皆さんに提供していたんです」

と、ニーズ調査の中で知ったエピソードを、陸前高田ライオンズクラブの村上富夫幹事が話してくれた。一方、敦賀ライオンズクラブの壁下会長は、

「誇りを持って語れる記念事業を実施することが出来ましたが、これも陸前高田ライオンズクラブのきめ細かい対応があったからこそ。子どもたちにはまだまだ厳しい環境が続くと思いますが、陸前高田が1日も早く復興すると共に、今の小中学生が、明日の高田を担う人材へと育ってほしいと願っています。

我々も、今回の絆を大切に継続的に復興のお手伝いしたいと考えていますが、今後、更に多くのクラブが復興支援をクラブ事業に加えて頂けたら、被災地の大きな力になると思います。今回は、その先鞭をつけられたら、との思いも込めて取り組みました」

と話していた。（取材／鈴木秀晃）

調印式を終え固い握手を交わす壁下会長と熊谷会長（右）

岐阜県・土岐織部ライオンズクラブ

## 緊急災害支援ネットワークとのコラボで、地域の伝統産業を被災地支援に生かす

土岐織部ライオンズクラブ（安藤英樹会長／55人）は土岐市が誇る伝統産業・美濃焼で、東日本大震災の被災地支援に乗り出した。製陶会社を経営する新会員のライオン加藤海蔵が、自社の陶器を被災された方たちのために役立てたい、と申し入れたことがきっかけだった。

提供された陶器は全部で6700点。量が多いことから単一クラブでの配布は難しく、協力クラブを探していたところ、本誌11月号本欄に「緊急災害支援ネットワーク」の活動が紹介され、協働を打診してみた。同ネットワークではこれを快諾してくれ、話し合いの中で仮設住宅での配布の他、ネットワーク加盟クラブが地域でバザーを行い、その売り上げで緊急災害支援ネットワークで取り組んでいる「サークル米」の買い付けも行うことになった。

11月23日には2回目となる「サークル米」の配布が、岩手県山田町で行われ、土岐織部ライオンズクラブからも加藤万寿夫幹事が参加。同ネットワークの青森県・弘前東奥、岩手県・石鳥谷両クラブの他、活動に賛同した青森県の八戸中央ライオンズクラブと藤崎ライオンズクラブ、隣接する宮古市の陸中宮古ライオンズクラブも加わり、6クラブ40人で配布に当たった。各地のライオンたちは陸中山田ライオンズクラブの案内で、仮設住宅1300世帯を訪問。1キロ入りの米を手渡しながら、話しかけも行った。

土岐ライオンズクラブに所属する父（ライオン加藤正弘）と共に、片道約920キロの道のりを車で駆け付けた加藤幹事は、

「困っていることを聞いても、皆さん、頼るのは悪いと思われているのか、十分ですとおっしゃっていました。が、被災された方から直接お話を伺え、とても貴重な経験をさせて頂きました。クラブへ戻って報告をし、更なる支援につなげられればと思います」

と話していた。（取材／鈴木秀晃）

東京江戸川東、東京フロンティア ライオンズクラブ

## 東日本大震災被災地への継続支援のため資金獲得バザー開催

東京江戸川東ライオンズクラブ（佐々木伊知男会長／57人）と東京フロンティアライオンズクラブ（櫻井大介会長／16人）は10月27日、都営新宿線船堀駅前にあるトキビル広場で、東日本大震災復興支援チャリティー・バザーを開催した。東京江戸川東ライオンズクラブはこれまで岩手県の被災地を中心に支援活動を続けており、5月に大槌町の子どもたちに防犯ブザー、9月に野田村にイベント用テント、10月には仮設住宅入居者にホットカーペットを贈った。現地を訪問し、被災した方たちとの交流も生まれたことから、更なる継続的支援をと、子クラブの東京フロンティアライオンズクラブと共に事業資金獲得のために企画した。

　バザーにはメンバーが持ち寄ったゴルフ用品やブランド服、雑貨などの他、被災地の物産も用意。津波で製麺所が全壊し、従業員だった家族、親族5人が死亡・行方不明となった中、10月に再スタートを切ったばかりの大槌町・柏崎製麺所のラーメンや野田村の特産山ぶどうと野田塩の加工品、更にはタイ山岳民族への支援を通じて交流のあるチェンライライオンズクラブの山地幸元会長からの協賛品などが並べられた。

　この日はトキビル広場で毎週開催されている農業法人旦千花（たちばな）農園の市の日に当たり、多くの人がバザーをのぞき、被災地の物産や珍しいタイの食品などを買い求めていた。結局、この日用意した品物は完売。売り上げ金52万2856円は、両クラブのアクティビティとして、今後、被災地への復興支援に活用していく。

（取材／鈴木秀晃）

石川県・内灘ライオンズクラブ

## 南三陸へ中古車を寄贈

内灘ライオンズクラブ（鈴木賢一会長／19人）は宮城県・南三陸志津川ライオンズクラブ（小坂克己会長）を訪問し、車検の残っている下取り中古車を寄贈した。

第1弾は8月29日、鈴木会長や私、メンバー4人が、寄贈するワゴン車を積載車に、もう1台をメンバーが運転し片道700キロを走り現地に入った。

翌朝、夜明けと共に見渡す限りのがれきと夏草に息をのんだ。山のように野積みされた車、マンションの屋上に流れ着いたままの車、横倒しになったSL機関車など、津波の大きさを実感させられた。骨組みだけが残る防災センターの前には献花台が設けられ、我々もここで花を手向け祈りを捧げた。一方、訪問前日に開かれていた復興市の看板や、全国から寄せられたたくさんの応援メッセージを目にし、復興へのパワーも感じた。

10時半、南三陸志津川ライオンズクラブのメンバーから当時の状況などを聞き、改めて地震・津波の被害の大きさを感じた。小坂会長からは、「たくさんの車が流されたが、購入する余裕がない人が多い。ありがたくお受けし、復興や奉仕活動に役立てたい」と言って頂いた。

更に9月22日に第2弾を実施。荒尾勝彦334‐D地区ガバナーの公式訪問に合わせ、金沢兼六、金沢城北、金沢森本、高松、かほく中央の各クラブとの合同アクティビティとし、当日、計8台を輸送業者に依頼し送り届けた。

この事業がマスコミに取り上げられたことで、一般の方からの提供もあり、申し出も届いている。続けて公報や公民館での掲示、回覧板などを通じて発信していきたい。

私たちの活動が少しでも地域で評価され、ライオンズが市民権を得て、「私も参加してみよう」という方が現れることを願ってやまない。今後もこのアクティビティを発展させ、今年度中に計50台の寄贈を目標に、被災地の一日も早い復旧復興を祈りつつまい進したい。

（ゾーン・チェアパーソン／東銑一）

兵庫県・尼崎琴の浦ライオンズクラブ

## 綿菓子作りで子どもたちと触れ合い

8月27日、児童養護施設・尼崎市立尼崎学園の夏祭りに出展・参加した。同園には現在、幼児から高校生まで57人の子どもが暮らし、職員30人が従事しておられる。

尼崎琴の浦ライオンズクラブ（30人）は毎年、学園の1泊2日の海水浴に同行し、職員の応援や子どもたちとの触れ合いを行っている。更に今年は、これに加えて、子どもたちが主催する夏祭りに参加した。

子どもたちは学園の中庭で、焼きそば、から揚げ、サンドイッチ等の食べ物やゲームなど12店を出店し、互いに交流する。当クラブは子どもたちの希望により綿菓子の屋台を出すことにした。

当日は職員から最近の家庭事情や子どもたちの様子について話を聞いた後、準備に取り掛かった。あいにくの雨模様で、会場を室内に移しての夏祭りとなった。

目の前で綿菓子作りを見るのは珍しいらしく、自分で作りたがる子が大勢いて、準備の時から大にぎわいで大繁盛となった。メンバーは子どもが綿菓子を作るのを手伝い、終始目の回る忙しさだった。また、各店を回り子どもたちの手料理をお腹いっぱい頂いた。

毎年の海水浴同行で仲良くなった子も多く、楽しい時間を過ごすことが出来た。

子どもたちの未来が輝かしいものとなることを祈り、今後も応援を続けていこうと、思いを新たにした一日だった。

（会長／松川清彦）

333-A地区第6リジョン（新潟県）

## 被災地復興チャリティー・ライブ開催

8月20日、333・A地区第6リジョンの5クラブは合同で、「十日町出身者チャリティー・ライブ」を盛大に開催。十日町出身のものまね歌手、俵山栄子さんや落語の桂歌助さん、書家の平野壮弦さん、歌手の高野千恵さんなど10組の芸能人を招待し、被災地復興のための募金活動を行った。入場券を1500円で販売し850人が来場。この収益金は全額十日町市と津南町、東日本災害支援本部を通じて被災者に渡された。

今年十日町市は1月の豪雪、3月12日の新潟・長野県境地震、7月の豪雨災害と、わずか7カ月足らずのうちに3回の激甚災害指定を受ける事態になった。しかしこういう状況こそライオンズの力を結集すべきと、新潟日報社と共催でライブを企画したのである。

地域出身の芸能人たちは、被災地のライオンズがんばって全国に元気を発信するという趣旨に賛同し、出演料を辞退して参加してくれた。ライオンズ会員はポスターの製作や入場券の販売、当日の入場整理など、「絆」をデザインしたそろいの法被を着て盛り上げた。広い会場の一角では地元の物産や弁当なども販売されてにぎわった。

チャリティー・ゴルフなどとは異なり、ライブの準備には大変な時間が費やされた。そうして5クラブが初めて力を合わせて取り組んだことに意義があったと思う。ライブ終了後、5クラブ合同の例会を開催。ライブの大成功と会員増強などの話題を中心に、親睦を深めることが出来た。

（地区PR情報委員長／大渕英雄）

福島シニア ライオンズクラブ

## 災害復興を目指す講演会を開催

福島シニア ライオンズクラブ（大内章会長／16人）は2010年6月に認証を受けた、発足間もないクラブである。当初は会員の親睦・交流が主で、アクティビティに対する意識はあまり高くなかった。しかし、東日本大震災を契機に地区キャビネットと連携し、被災者を受け入れている福島市の公共施設へ支援物資を搬送したり、避難者の意向を把握し県災害対策本部に伝達、円滑な救援活動を支援するなど、奉仕活動の実践を通じて会員間の結束を深めたところである。

また、原発による放射能汚染で全村民の避難を余儀なくされている飯舘村の現状を知り、支援の輪を広げる必要があると考え、今後の町づくりも含め「災害復興の取り組みと安全・安心なまちづくり」をテーマにした講演会を開催した。

国際的奉仕団体であるライオンズの活動状況も伝えられ、会員増強の必要性も含めて参加者の理解が得られたと思う。本事業を行うに当たっては、役員会で大いに議論を重ね、有識者を交えての勉強会や講師との打ち合わせ、被災現場の視察等、時間的に余裕があるシニアならではの計画的で地道な活動が行われた。その結果、会場を埋め尽くした170人余の参加者の共感を得たものと思われ、会員一同充足感に浸った。

イラスト／篠田和夫

今、若者や女性の会員増強が課題となっているが、少子高齢化が進行する中で、元気なシニアが中心となって公益性の高い啓発活動を行うことも会員増強につながるものと思う。

（事業委員長／濱田千恵子）

三重県・松阪中央ライオンズクラブ

## 障がい者(児)体育レクリエーション大会

10月16日、松阪市立殿町中学校体育館において「第46回松阪市障がい者(児)体育レクリエーション大会」が開催され、障がい者、ご家族、ボランティアら455人が参加。さまざまな競技を通じ、心と体のリフレッシュと互いの交流を深めた。

この大会は松阪市社会福祉協議会が主催し、松阪中央ライオンズクラブ（増山晴幸会長／78人）が後援しているもので、継続事業の一つでもある。

当クラブでは大会で使用するすべての競技用具を寄贈。また、今年は諸事情によりボランティアの人数が例年に比べ大幅に不足しているという連絡を受け、急きょ有志を募ったところ、クラブ・メンバー25人もが名乗りを上げてくれ、大会の運営協力に当たった。

視覚、知的、四肢障がいなどがある方と一緒に気軽に取り組める競技「三色玉入れ」、「みんなで踊ろう」、「収穫の秋」、「大玉ころがし」等、全員で参加し楽しんだ。

また、障がい者施設がそれぞれに趣向を凝らした応援合戦は大いに盛り上がり、その一生懸命な姿に会場から温かい拍手と歓声が飛んだ。

ハンディキャップを感じさせず、ぐいぐいと先頭を引っ張っている子どもの活躍ぶりにわくわくハラハラしながらも、頼もしさを感じた。

今後もこうした催しを通して、障がい者の皆様の社会参画への機会を広げ、多くの市民の方々と交流し、相互理解を深めて頂きたい。微力ながら当クラブも、皆様に少しでも喜んで頂ける事業になるよう継続して協力していくつもりである。

（社会福祉委員長／水谷好廣）

北海道・網走ライオンズクラブ

## 手作りの感動、未来世代に～「工作教室」

網走ライオンズクラブ（吉野英男会長／41人）はオホーツク・文化交流センターで「親子で楽しむ工作教室」を開催。大勢の親子連れが竹とんぼや竹笛、水鉄砲など、昔懐かしいおもちゃ作りに取り組んだ。

青少年育成事業の一環としてクラブが材料等を用意。製作指導には、手作り遊びの普及に努める「どこでも竹とんぼ教室オホーツク　竹とんぼの会」の協力を得た。

今や子どもの遊び場自体が希少価値化し、ゲームが主流の時代。しかしゲームだけでは子どもが本来持っている自由な創造性が伸びず、潜在能力の発達が阻害される危惧がある。バーチャル（仮想現実）の世界の遊びでは、子どもの想像力がリアリティ（現実）の世界に反映しないことが問題とされる。更にまた、かつては子どもの遊びや夢が親から子へ連綿として伝わり、地域の文化や伝統に根ざしていた。遊びと物作りを通して、子どもたちは知らず知らず、家族や社会に対するコミュニケーションの力を養っていたとも言えるだろう。

そうした手作りの感触・感激を体験する機会が激減しているのを憂慮して企画されたのが、今回の工作教室だ。

共同作業を通して親子が気持を通わせ合う、貴重な一日になったようだ。例えば竹笛作りは息を吹き込む竹の棒と、音が出る穴の位置がポイント。うまくいかずに試行錯誤を繰り返す我が子を見かねた母親が、親心を発揮して手を貸した。が、竹の棒が妙な具合に曲がってしまって大笑い。

アーチ形の高い吹き抜けのアトリウムでは、竹とんぼがクルクル回りながら2階を超える高さまで上がると、「すごい、すごい！」と歓声がこだました。子どもたちにとっても工作教室は新しい発見と驚きに満ちたワンダーランドになったようだ。

（PR・情報委員長／河村吉一）

愛知県・幸田ライオンズクラブ

## 大きく育て椿の木

9月13日、幸田ライオンズクラブ（山本冨夫会長／24人）は、町内にある本光寺の椿園で清掃奉仕を行った。

椿は、1973年に住民投票で決定した幸田町の町の花だ。当クラブは40年前に、当時の町長や同寺の協力を得て三河椿郷本光寺椿園を作った。以来、メンバーが肥料やりや、下草刈り、春秋の清掃奉仕と汗を流し、そのかいあって椿は大きく育っている。

今や町の自然公園として親しまれているだけでなく、毎年見事に花を咲かせる同園の椿を、遠くは京都から愛でに来る人もある。その数150種、800本を数え、種類では世界に誇る。

園が発展した理由の一つは、当クラブ・チャーター・メンバーの故ライオン上田敏郎が世界椿協会の理事を務め、自らも「一子侘助（いちこわびすけ）」の発見者であり、椿に造詣が深かったことがあろう。一子侘助の一子は愛妻の名前だ。ライオン上田はオーストラリアやスペインなど、椿で有名な国々を回り、世界中から苗木を手に入れて本光寺に植樹した。

本年度、タム国際会長が提唱している「世界に100万本の植樹を」に対し、当クラブでは昨年挿木した椿の苗木を、「まちの花」として一家に一本ずつ植えてもらおうと考えた。メンバーが、可愛いくて元気な苗木を小鉢に植え替え、幸田町の各家庭に配る計画である。

現在、苗木はまだ約150本しかないが、これからこの運動を続け、多くの町民が大きく育った奇麗な花を咲かせる椿を持てるよう祈りながら、植え替え作業に励んでいる。

（PR委員長／尾山剛）

337-B地区第1リジョン第7ゾーン北地区（大分県）

## 世界ライオンズ奉仕デーに合同清掃奉仕

10月9日、第7ゾーン北地区の4クラブ（鶴崎、大分坂ノ市、鶴崎臨海、大分大在）は合同清掃奉仕を実施した。清掃区域は大分市の中枢、臨海工業地帯を結ぶ40メートル道路の9・2キロ区間。1クラブ2・1～2・5キロずつ、歩道と中央分離帯を清掃、空き缶、ビン、ペットボトル等の回収を行った。ライオンズ奉仕デーに合わせて毎年実施している継続事業である。

この時期にこの場所を清掃するのは、「大分国際車いすマラソン大会」の走行ルートだからでもある。同大会は1981年の国際障害者年を記念して大分の地で産声を上げ、幾多のすばらしい記録と思い出を刻みつつ発展を遂げてきた。世界最大、最高レベルの大会として国内外から高い評価を受けている。

選手は専用の車いすに乗り、42・195キロを1時間20分台で駆け抜ける。下り坂では時速50キロを超えることもある。重度の障害を持つランナーは、上り坂では力を振り絞り時間を掛け、声援に後押しされて登りきる。その姿は障害のある人たちだけでなく、すべての人に大きな勇気を与えてくれる。だから我々は、彼らが少しでも気持ちよく走れて、沿道の観客も心から声援を送れるようにという期待を込め清掃しているのだ。

我々が「We Serve」の原点に立ち返り、奉仕と友愛の絆を深める重大なアクティビティである。

（ゾーン幹事／宮永紀芳）

福岡県・大牟田中央ライオンズクラブ

## 大牟田高等学校献血会

日本ライオンズが献血運動を始めて46年。337‐A地区は積極的にこれを推進してきた。福岡県内では献血バスと献血ルームで行われ、ライオンズの献血はすべて前者。昨年、一昨年とも、県内の献血バスでの採血全体の4分の1を占めた。

少子高齢化社会により今後は血液製剤を必要とする人が増加する一方、献血可能な年齢層の減少が想定され、より一層の注力が求められている。

今年度は採血基準の改正が施工され、男性は17歳から400ミリリットル献血が可能となった。当クラブはこの機会を捉え、若年層、特に高校生に対する献血の啓発・普及運動を展開していくことにした。

大牟田高等学校は在校生1200有余人を擁し、駅伝、柔道、野球、吹奏楽など各分野で優秀な成績を収めている。同校に申し入れたところ、学校当局もその趣旨を理解し積極的に協力してくださることになった。

第1回献血会を9月6日に実施。爽やかな初秋の日差しの中、9時30分の開始から15分間隔、5人単位で献血バスに入り、予定時間通りの午後3時に終了した。受け付け93人、採血者83人。中でも部活動で活躍している生徒さんが率先して参加してくれうれしく思った。行き届いた学校側の配慮にも会員一同感謝を申し上げた次第である。

第2回は「卒業記念献血会」と銘打って今年2月に予定しており、多数の参加を期待している。

学校当局に次年度に向けて1、2年生を対象とした献血研修会の設定をお願いしたところ、3月に行うことになった。福岡県赤十字血液センターと連絡を取りながら、受講者の啓発と献血の普及に努めていくつもりだ。

（幹事／萬矢勝保）

大阪府・八尾中央ライオンズクラブ

## 河内音頭まつり大パレードに参加

八尾中央ライオンズクラブ（吉本稔会長／53人）が「八尾河内音頭まつりパレード」に参加するようになって10年。今年は当クラブの河内音頭同好会とライオン・レディーに加え、八尾うぐいす、南大阪みささぎ両クラブの友情出演をバックに総勢60人で挑んだ。

8月28日、先頭にクラブ旗、そしてメーン事業である薬物乱用防止のタスキと横断幕をひっさげ、マスコット・キャラクターのライオンマン、「ダメ。ゼッタイ。」子ちゃんも加えてエントリー。5時20分、いよいよ我がクラブの出番だ。気合いを込めて全員で「ウォー」と一声、元気よくパレードに繰り出した。今年は東日本被災地復興チャリティー・イベントも兼ねており、参加者3千人、J:COMの生中継もある。躍動感あふれる河内音頭の調べに、自然と八尾の夏が盛り上がる。

約40分の道中に、沿道の観客、知り合いの皆さんから温かい応援の声や拍手を頂き、踊りも一糸乱れず？無事ゴールした。マスコットもたくさんの子どもたちから握手をねだられ、テレビ・クルーにも撮られ大人気だった。

実を言うと連日30度を超す猛暑でメンバー誰もが着ぐるみを着るのを尻込みする中、何と若手メンバーのご子息（中学2年生）が「僕、ライオンズのためやったら『ダメ。ゼッタイ。』子ちゃんをかぶります！」。ライオンマンは事務局員が引き受けてくれ、大いに感謝‼ 今回のパレードも大成功を収めることが出来た。

「よかったなぁ！」「来年もやりまっせぇ！」。この元気と笑顔が被災地の皆さんに届けばエエなぁと思いつつ、「ウィ・サーブ」でビールの乾杯。良い汗をかき、良い気持ちで、良い奉仕が出来たと全員満面の笑みだった。

（設営・PR委員長／野勢昌彦）

東京ワンハンドレッド ライオンズクラブ

## モンゴルにクラブをエクステンション

東京ワンハンドレッド ライオンズクラブが結成されて3年目。この度初めてスポンサーしたクラブが、モンゴルのハンガイライオンズクラブである。

なぜモンゴルなのか。6クラブ約100人の会員を有する同国にはまだ地区がなく、日本のライオン中野了（東京渋谷ライオンズクラブ／元地区ガバナー）が国際協会から委嘱されて、2003年からモンゴル・コーディネーターというガバナー代行を務め、熱心に増強に取り組んでおられた。一方、当クラブは3年目を迎え新たな一歩を模索していた折、ライオン中野に「モンゴルにエクステンションしてみないか」と声を掛けて頂いたのである。

クラブ名はモンゴルの三大山脈の一つハンガイ山脈にちなみ、その最高峰オトゴン・テンゲルはモンゴルで最も有名な聖山でもある。その名のように国を象徴するような大きく強いクラブとなり、裾野を広げていってほしいという願いを込めた。

このハンガイライオンズクラブのチャーター・ナイトが9月10日、首都ウランバートルで行われ、330複合地区モンゴル支援委員会の方々と共に参加した。既に秋の様相のウランバートルは、ビルが立ち並び車も人も多く、発展中の勢いを感じた。一方、街から離れると、見渡す限りの青い空と緑の草原に羊、ヤギ、馬が散在し、ポツポツと白いゲルが見える。

チャーター・ナイトはライオン中野の采配により厳粛かつ盛大に行われた。モンゴル語と日本語が交錯し、政治経済のボーダーレスが進む時代にふさわしい、国境を超えた式典だった。

広大で元気な彼の国にライオニズムが広がっていってほしい。初めてのスポンサーは大きな夢を描く機会となった。

（会長／土屋定彦）

島根県・東出雲ライオンズクラブ

## 薬物乱用防止・成人病予防セミナー

東出雲ライオンズクラブ（福頼敏文会長／51人）は10月18日、松江市立ふれあい会館にて、青少年の薬物乱用防止と、糖尿病などの生活習慣予防を目的としたセミナーを開催しました。

このセミナーには一般市民や社会福祉協議会、松江市東出雲支所の方々、他のライオンズクラブ・メンバーなどをお招きし、総勢130人以上が参加されました。

会場では参加者全員にカロリー計算をした弁当を配布。食事についての説明を松江市東出雲支所の荒木順子様にして頂きました。

前半の薬物乱用防止講演では松江警察署生活安全課の向田美紀様を講師として迎え、禁止薬物による身体・精神への悪影響や、依存の恐ろしさを語って頂きました。

後半には成人セミナー「眼について」と題し、いしはら眼科医院の石原美香院長が講演されました。スクリーンに写真やグラフなどを映しながら、糖尿病が目に及ぼす悪い影響や、メタボリック・シンドロームについて、大変分かりやすく解説して頂き、会場の参加者は皆、真剣に聴き入っていました。

今回のセミナーが、直接話を聞かれた方々と、更に地域社会を明るく良い方向へ変えることに役立つよう祈っております。

（薬害・成人病教育委員会／片山久美）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領→54ページ

# 布施の心

田村 健（宮崎県・日向ひまわり）

日向ひまわりライオンズクラブが結成されて、今年2月で28年になります。結成前後には、二十数人のチャーター・メンバーに対しての教育が続きました。中でも記憶に残っているのが、会員の入会に対する条件です。

まず、入会者は異業種であること。もし同業者が入会される折には、先に会員になられている方の了解を取り、円満な形で入会して頂くこと。2番目に、政治的思想を強く持っておられる方は遠慮して頂くこと。3番目に、宗教的思想を持っておられる方も遠慮して頂くこと。

以上がライオンズクラブへの入会条件であると教わりました。それらの条件は、会の運営に対して、トラブルの元になりうることを未然に防ぐ対策ではないかと考え、納得していました。

同業者の場合、お互い仕事のことで気まずい思いがし、退会の原因になるのは今も変わらないと思います。ただ、政治家の場合は、自分の政治信念を強引に主張し、会員にいやな思いをさせない限り、入会を認めるべきだと考えます。宗教も政治と同じで、クラブ内での宗教活動を禁ずれば良いのではないでしょうか。キリスト教も仏教も、そしてその他の宗教も、正しく信仰しておられる方々は、ライオンズと同じく、社会のため人のために尽くす、奉仕の精神で活動されています。

仏教の教えの中で、いちばん大事なことは「布施の心」である、と教本に書いてあります。一般的に布施と言ったら寺の壇家が、盆や彼岸、そして先祖の供養の折に、お寺に捧げる金品と考えている方も多いのではと思いますが、それも一つの方法ながら、本当の布施はそれだけではないのです。

「本当の布施とは」

●恩を返してもらうためにするのではなく、人を喜ばすものでもない。

●天の果報を得るためでもなく、人に優れていることを示すものでもない。

●乱費をする者には施さず、多くを有する者にも施さず、無用の施しをせず、親しいからといってするものでもない。

●誠の施しとは、真に人を愛し、他人に安楽を与え、慈善の心を起こさしめるため、煩悩を破るため、そして彼岸に達するために施しをすること。

●そして、その施しは、お金や品物には限らない、この言葉をもって、この手足を使って、この身体の力の限りを、他人のために尽くす。

●魂と魂の触れ合いによって生じる、心の底からの行為を布施と言う。

以上は、仏教の本から抜粋して書きました。この中に「煩悩」と「彼岸」という仏教語があります。煩悩とは、高い知識を持つ人類すべての者が持つ欲望のことで、その欲望を布施によって払拭し、彼岸に達するとは、自分も他の多くの人々も幸せになることを言うと書いてあります。

ライオンズクラブには、お寺のご住職も多く入会されています。専門職の方々から見たら素人が勝手な解釈を、とお笑いのことと思いますが、ライオンズの奉仕の精神と仏教の「布施」は非常に良く似ていると思います。冬の大寒の季節になると、仏教国の寺院では寒行が行われ、お坊さんが托鉢で求めた浄財を、広く福祉のために寄進「布施」されています。

そのように考えると、私たちの活動も無駄なことをしている訳ではないと思うようになりました。会員1人の力は弱くても、10人そして20人と集まれば、大きな力にな

ることも知りました。人類が持つ「煩悩」を、奉仕の精神で少しでも払拭し、社会のためそして弱者のために「Ｗｅ Ｓｅｒｖｅ」の精神でがんばり続けたいと思います。

# ライオンズ入会の意義

南井　繁樹（滋賀県・近江守山）

森羅万象すべてが有縁、すべてが因果応報の世界観の日本人は、自然の中に宇宙の神秘を感じ、畏敬を感じて生きて来た。人間関係も不思議なご縁で結ばれて、この世に顕在化しているのだと信じている。

いろいろな会やグループに入会したり、退会したりする時も、たくさんの人とのかかわりが発生する。人との付き合いに不慣れな人は、会組織に入るのを拒むことがある。実は私もそんな一人だった。

私はある人が強く背中を押してくれたおかげで、近江守山ライオンズに入会することとなった。入会を渋る私に活を入れたのは、私の姉（草津ライオンズチャーター・メンバーの故駒井昇一郎の妻）の言葉であった。

「社会人となって、自分の手と足で稼ぐ給料（我のため）で自分の仕事（世に生を受けた恩）を全うしたとは言えない。むしろライオンズクラブのような（他者のために）奉仕するクラブに入ってこそ、人間的にも、大人としても一人前になれる」

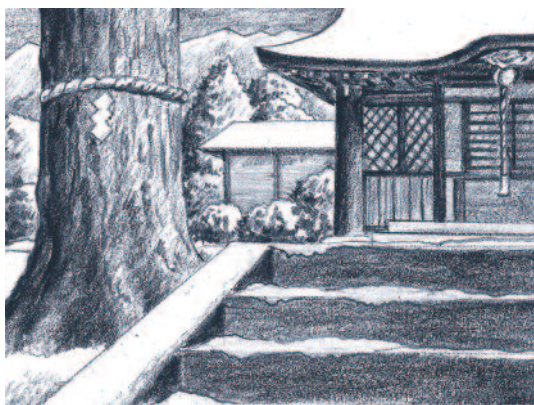
入会以来二十数年が経った今、１９８９年の入会、１９９５年の幹事、２００５年の会長、そして今、２０１１年「私はなにゆえライオンズクラブに入会したか」、更にはライオンズ・メンバーとして地域に貢献出来たこと、ライオンズ・ライフから得たもの、それは何かを考えてみた。

私は、初代会長（近江守山ライオンズ）の父（故南井竜太郎）が１９８８年4月13日に死去して、翌年3月9日に竹村茂夫のスポンサーで入会した。１９６４年5月10日がチャーター・ナイトだから、父は24年間、クラブ・メンバーの責を全うしたことになる。私も後2年で父と同じ在籍年数に達すると思うと、感無量である。

故駒井昇一郎（義兄）が、守山にライオンズをとのことで、父に結成を勧めに来た時、父は60歳になっていた。私の兄、故南井孝造（草津ライオンズ→守山ロータリー設立）の力もあって、１９６３年7月1日にめでたく近江守山ライオンズの結成式が執り行われた。守山小学校での結成式当時の写真を見ていると、木造の体育館で、いすとテーブル（学校から借り受けた）を並べただけの質素なものであった。「社明運動」の叫ばれた中で、滋賀県で10番目、335・C地区で34番目のクラブとして結成された方々の「勇気」「決意」「行動」に頭が下がる思いである。

当時の守山は、昔の湖南随一の商業地のイメージはなくなっていた。父と竹馬の友・故北田昇、竹村茂夫、故宇野宗佑、故小島幸雄ら商工会の方々の思いは、銀座商店街の新規建設に動いた。１９６４年、守山町建設部長だった故・北川俊一氏（後に守山市長）の進取の気性のおかげで、守山町都市計画道路第一号として、当商店街は町の有力業者を集めオープンした。

その熱さめやらぬ内に、近江守山ライオンズは結成され、まだ砂利道のままの守山銀座商店街を県のパレード隊を先頭に、チャーター・メンバーの毅然とした正装姿（アーミールック）、またライオン・レディーの華やかな浴衣姿がすてきなコントラストを見せてくれた。

１９６４年は新幹線が開通し、東京オリ

ンピックが開催された、メモリアルイヤーとして近江守山ライオンズクラブの上に燦然と輝いている。私たちメンバーは1年1年、結成の精神を失わず、現在まで48年間、ライオニズムを守り続けている。

奇をてらった奉仕は長続きしない。相手とじっくりと取り組んだ事業は、大きく花を咲かせてくれる。そこにあるのは、48年間の実績と、26人のチャーター・メンバーの思いに尽きる。

途中、矢折れ刃尽きて、退会、あるいは物故会員になっても、在籍した近江守山ライオンズクラブのメンバーとしての誇りを持ち続けられるよう、心掛けていきたい。自分一人で生きることは簡単である。しかし、成長する人間は、幾多の艱難（かんなん）に出会うとも、仲間と共に生きる道を選ぶものである。

イラスト／小川和政

奉仕という行為は、ただ食べて生きる利己的人生を、自分が犠牲になり相手の替わりに苦難を背負うことで、より豊かな幸福に満ちた人生に変えることになる。私たちは人の道を外さず、人のため、世のために生きて初めて、この世を去る時に余裕をもって家族に未来を託すことが出来る。これが真の信頼である、安心であり、喜びであり、何物にも変え難い誇りなのである。

# 人生を爽やかに ふるさとをひらくために

石田 彰良（兵庫県・八鹿）

八鹿ライオンズクラブが結成されて、やがて50年を迎えようとしている。思い起こせば１９６２年3月25日、志を同じくする会員24人が集まり結成式を持った。そして同年12月2日、ブラザー・クラブから千余人をお迎えし、チャーター・ナイトを挙行した。

当時、日本は四つの地区で構成され、兵庫県など関西のクラブは302・Ｗ１地区に所属していた。八鹿ライオンズクラブが誕生した時の地区ガバナーは大阪梅田ライオンズクラブのライオン伊藤五郎だった。日本の会員数は毎年増え続けており、それに伴って63年に6地区、64年に9地区と、毎年のように地区分割が続いた。そして76年、複合地区、準地区の再編成が行われ、日本は八複合地区時代に突入。兵庫県は335・Ａ地区と335・Ｄ地区に分かれ、八鹿ライオンズクラブは335・Ｄ地区に編入された。335・Ｄ地区の初代ガバナーは姫路白鷺ライオンズクラブのライオン渡辺素行が務められた。

私ども八鹿ライオンズクラブが誕生した翌年の１９６３年、八鹿の名を一躍世に知らしめる出来事があった。現在の養父市八鹿町小佐地区から朝廷に赤米5斗を献上していた（「但馬国養父郡老佐郷赤米五斗　村長語部広麻呂　天平勝宝七歳五月」）と書かれた木簡（荷札）が、奈良の平城京跡から出土したのである。

日本の米の原種と言われる赤米は多くの人々の心を揺り動かし、古いものへの好奇心をかきたてた。この故事にちなみ、１９９１年、小佐地区で赤米づくりが始まった。以来、毎年5月に「御田植え祭り」、10月に「収穫祭」を催し、収穫した米は妙見山中の名草神社に奉納している。

その名草神社の境内には三重塔があるが、これは１５２７年に尼子経久が願主となって出雲大社に建立したものだと伝えられている。その後、出雲大社本殿の造営工事に際し、神木である妙見杉を提供した縁で、尼子経久の栄光の記念物が、この地に移築されることになった。

そんな八鹿の町にライオンズクラブ結成の声が挙がったのは１９６２年。結成の核

となった顔ぶれは町のトップの方々、年輩の優れた人々、また父のお連れの仲間ばかり。そんな中、父が私を呼び、「そういう方々と話をし、人間関係を結び、絆をつくれば、人間として一段と成長出来るのではないか」と。いわば父の一声である！

父のこの言葉が、今日まで私をクラブにとどめさせているゆえんだろう。当時、歌をうたったり吠えたり、ライオンズクラブは勃興期で、全国でチャーター・ナイトが数多くあり、先輩のお伴で各地の式に参加させて頂いた。

1981年には同じリジョンから初めてライオン河原道夫（城崎ライオンズクラブ）がガバナーとなり、更にその4年後には我が八鹿ライオンズクラブから初めてライオン井上弘がガバナーに就任された。ライオン井上はテーマを「爽」とし、「爽やかな奉仕と運営を実践。奉仕は人のためだけでなく、自分のためにも努めれば努めるほどその喜びは大きい。誠の道に生きよ!! 隙間から出た光は大きく、明らかである」と話された。

ライオンズクラブはリジョン、地区、複合地区、日本レベル、国際レベルと、ポジションによって、それぞれ役割があり、活動も広がっていく。自分のクラブだけでは出来ないことでも、他のクラブと一緒に手をつなぎ、実現させることも出来る。そして、そのかかわりの中での仲間としてのお付き合いこそ、ライオンズの醍醐味だと言えよう。

八鹿が生んだ偉大な儒学者であり、教育者であった池田草庵は、但馬内外の子弟教育に没頭。その教育方針は、知識を与えるより、人間の生き方、人格の完成を目指すもので、修養を重んじた教えを説いた。草庵の講義を塾生が書き取ったものの中に、「志を立てる」という項があり、それには「志は高く大きく持ち、実践は身近なところからが良い」とある。

我々ライオンズも志を高く持ち、そして身近なアクティビティを実践していきたい。また、いつも楽しいクラブであるために、思いやりの心を持ち、優しい未来への輝きを信じよう。

「人と人との出会い、心と心の触れ合いにほんものの喜びを」

今、我ここに生きる。

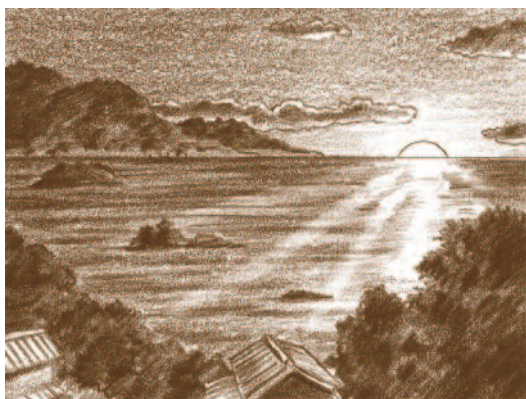
# 私の獅子吼

塚越 喜一郎（茨城県・下館シニア）

私は91歳、そろそろ人生の締めくくりをと考え、かつて書いた文章を探して整理してみました。そうしたら、いろいろな思い出が明らかになってきました。その中で多いのはライオンズクラブ関係でした。特に『ライオン』誌の「獅子吼」でした。

私は1994年の11月、日本最初のシニア・ライオンズクラブの下館シニアライオンズクラブの結成に参画し、初代会長を務めました。それから現在までの17年間に、『ライオン』誌の「獅子吼」に7回登場しました。私は懐かしい思いで読み返しました。

第1回は1997年11月号「カナダ旅行でのこと」でした。ホテルで、非常に親切に世話してくれた日本留学の経験があるというアルバイトの学生が、私のライオンズ・ピンを見つけ、クラブについていろいろ話し合い、非常に感動されました。そして大学卒業後は大阪に行き日本女性と結婚の予定ですが、そこで安定後、ライオンズクラブに入会しますということでした。

第2回は1998年12月号「花をふやそう」でした。私は1991年12月、市教育長引退後も出来ることで世のため人のため

になることをしたいと考え、延べ300メートルのアジサイロードを作ると共に、誘致に努力した県立生涯学習センターの敷地にも100株ほど植え付けました。翌年からはクラブの奉仕活動として毎年実施、現在約2千株になりました。見事に咲き誇り、市内の花の名所になりました。

第3回は2001年3月号「終戦時の思い」でした。私は終戦の時、陸軍主計大尉で中国の大原にいました。ここで我々は捕虜となり非常に虐待されるものと覚悟しましたが、案に相違して穏当な待遇をされました。その理由を聞きましたら、蒋介石総統の「暴をもって暴に報ゆることなかれ」の命令によるということでした。更に調べてみると論語の教え「直きを以て怨みに報い、徳を以て徳に報ゆ」が根本にあるのでした。私はここから論語の勉強を始めました。そこで「仁」を学び、私のライオンズへの思いを強化しました。

第4回は2003年4月号「私のライオンズ哲学」でした。私はここでライオンズクラブの基本思想を支える先人の教えを幾つか見つけました。

- ●内村鑑三著『後世への最大遺物』の「勇ましい高尚なる生涯」
- ●伝教大師・最澄著『山家学生式』の「一隅を照らす、これ国宝なり」
- ●安岡正篤の「一灯照隅、万灯照国」
- ●仏教「六波羅蜜（布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧）」
- ●論語「徳は孤ならず、必ず隣あり」
- ●新渡戸稲造著『武士道』の「Noblesse Oblige（高貴なる者の義務）」

第5回は、2004年3月号「全国シニア・フォーラムに参加して」でした。サッポロシニア ライオンズクラブ主催の第1回の全国シニア・フォーラムが見事な計画、見事な進行によって、非常な感動の中でシニア・ライオンズクラブの拡充の機運を盛り上げました。そして直ちに全国シニアライオンズクラブ連絡協議会を結成、その後の方向づけも確立しました。そして現在に続いているのです。私はここで基調講演をさせて頂きました。

第6回は2006年7月号「妻の角膜はなお生きている」でした。2006年2月24日、妻三代子が死亡。生前よく話し合って献眼登録していましたので、直ちに手続きをして献眼しました。1週間後には移植した患者が非常に喜んでいると担当医から連絡を頂きました。献眼して良かったと思います。

第7回は2010年5月号「二宮尊徳とライオンズクラブ」でした。下館シニアライオンズクラブの15周年記念事業として、市民の心に訴えるものと考え、二宮金次郎（尊徳）の石像を市に寄贈しました。それで尊徳遺訓を調べました。その遺訓の要旨は至誠、勤労、分度（自分にふさわしい質素な生き方）、推譲（奉仕）、積小為大です。これはライオンズクラブの心と全く同じです。ライオンズの心の強化に役立つものと思います。

これが私の「獅子吼」暦です。私が述べたことは一灯ずつに過ぎませんが、一貫してライオンズの心を訴えたつもりです。

今後も『ライオン』誌日本語版には、読者の心にライオンズの心を訴え続け、会員の多くがNoblesse Obligeを見事に果たせるように努めて頂きたいと思います。

Close up

# 自分の町を、自慢出来る人間に

ここは江戸時代から続いた二葉屋酒造の店舗兼住宅だった建物です。前にある木はセンダン。すごくいいでしょう？ 2階の床の間には希少な黒柿が使われています。座敷にある扁額は、洋画家で書家の中村不折のものです。2年前、廃業されて取り壊しになるというので、買い取って保存しています。正確な建設時期は分かりませんが、明治の後半に移築されたようです。

市川大門は和紙づくりの里として千年を超える歴史があります。白くて美しい「肌吉紙」が徳川幕府の御用紙となり、この辺りもずいぶん栄えました。以前は土蔵作りの家々が並ぶ風情のある町並みでしたが、それもだんだんと姿を消しています。5年前には、老舗の料亭が取り壊しになるというので、保存を訴えて署名活動に取り組みました。慶弔の集まりなど、町の人にとって親しみのある建物でしたが、残念ながら願いはかないませんでした。その悔しさがあったので、今回は国の登録有形文化財の登録を目指して活動し、この10月末に認定を受けることが出来ました。

「自分の町を自慢出来ない人間は信用出来ない」

これは、姉妹都市であるアメリカ・アイオワ州のマスカティーン市の市長に言われた言葉です。今、各地で盛んに行われている町おこしには、外から大勢の人を呼び込む取り組みが多いですが、私はそこに住む住民が、いかに歴史や魅力を理解し共有して、楽しめるかが大切だと考えています。

私の会社は事務機器の販売をしていますが、元々は紙を扱う商いから始まって、今年で107周年を迎えました。24年前から、地域のためになることをしたいと、町の名所や歴史を紹介するミニコミ誌『邦文堂だより』の発行を続けています。それをきっかけに、「市川マップの会」というグループを起ち上げ、イラスト入りの散策マップを作ったり、街並み保存のイベントを企画する活動をしています。

昨年から、市川大門三珠ライオンズクラブとマップの会が協力して、地元の中学生を対象にした写真コンクールを始めました。夏休みの課題として、「だから、わたしはこのまちが好きです。」のテーマを1枚の写真に表現してもらうという企画です。その作品を集めた展示会を、この旧二葉屋酒造で開き、市民の皆さんにもご覧頂いています。自分たちの町を胸を張って自慢出来るように、子どもたちの目で地域の魅力を発見してもらいたいと願っています。

**■一瀬 茂**

いちのせ・しげる　1950（昭和25）年山梨県市川三郷町生まれ。事務機器販売邦文堂の5代目社長。町内の名所・旧跡を紹介する地図作りやイベント開催に取り組む「市川マップの会」会長。90年、チャーター・メンバーだった父に続いて、市川大門三珠ライオンズクラブに入会。2003年度330-B地区会計、04年度クラブ会長、10年度リジョン・チェアパーソン、今年度地区会則委員会委員長。

写真・構成／河村智子

おすすめの ippin

宮城県気仙沼市
# 丸ズワイガニ

丸ズワイガニと言っても、ほとんどの方は聞いたことがないだろう。実はこれ、俗称で、正式な和名はオオエンコウガニ。英名で、Deep-sea red crabと呼ばれるように、600～1千㍍の深海に生息している。日本では以前から、カニ缶となってスーパーなどの商品棚に並べられていた。また、本ズワイやタラバなど他のカニに比べ、うまみ成分であるアミノ酸の含有率が高く、中華料理や洋食など業務用に販売されていた。

11月12日に宮城県気仙沼市にオープンした復興屋台村・気仙沼横丁の一角にある「かに物語」では、そんな丸ズワイガニを直売している。店内では試食コーナーも設けられ、実際にこのカニを食べることが出来る。で、肝心の味だが、甘みが強く、とてもおいしかった。「かに物語」の運営会社㈱カネダイは津波で本社を始め工場、営業所など15の事業所がすべて流され、再興への第一歩として、気仙沼横丁へ出店したという。

●「かに物語」気仙沼市南町4-2-19（復興屋台村・気仙沼横丁）

ふるさと探訪

岡山県真庭市

# ジャージー牛が草食む 高原生まれの濃厚ミルク

文／砂山幹博　写真／田中勝明

### 国内最大のジャージー酪農地域

岡山県と鳥取県との県境、中国地方最高峰を誇る大山の東側に連なる1千メートル級の三つの山は、東から下蒜山、中蒜山、上蒜山。三座を総称して蒜山（ひるぜん）と呼ぶ。南側斜面の中腹には西日本屈指のリゾート地蒜山高原が広がり、夏ともなると避暑地として県内外から多くの人々が訪れる。また上蒜山の裾野、標高550～650メートル地点には40ヘクタールもの放牧地が広がり、高原の風景にはぴったりの牧歌的な雰囲気が漂っている。

ここで採草された草を主食にしているのは、蒜山の酪農業を支える乳牛「ジャージー牛」。イギリス領海峡諸島のジャージー島原産の牛で、もともと英国王室や貴族が飲むミルクを作るため特別に品種改良されたものだ。

白と黒とがまだらになったホルスタイン種の牛乳に比べ高タンパクで、ビタミンやミネラルなどの栄養価が高いのが特徴だ。乳脂肪5％前後、無脂固形分が9％以上と、世界の5大乳用種の中でも最も高い乳成分を持ち、乳質は極めて濃厚。カロチンを豊富に含むため、搾りたての生乳は淡い金色を帯び「黄金のミルク」とも呼ばれる。

日本で飼育されている乳牛の98～99％はホルスタイン種で、次いで多いのがこのジャージー牛だが、全体の約1％と圧倒的に少ない。その上、ジャージー牛は体高130センチ、体重400キロ程度と小柄なため、1日の採乳量はホルスタインの3分の2しかなく、生産量は限られている。

そのため知名度はあまり高くなかったのだが、近年、乳本来の甘さと深いコクのある濃厚な味が注目され、希少価値の高い高級品として人気を博すようになった。現在、蒜山一帯で全国の約5分の1にあたる1900頭のジャージー牛が飼育されており、飼育頭数と牛乳の生産量で日本一を誇っている。

### 蒜山を救った救世主

ジャージー牛がニュージーランドを経て、蒜山にやってきたのは1954年のこと。

標高500メートルに位置する蒜山高原は、昼夜の寒暖差が激しい山間盆地特有の気候。冬が長く寒さが厳しいため、農耕地としては恵まれていなかった。今でこそ高原キャベツなどが特産品となっているが、かつては何を作っても収穫が安定しないという状態が続いた。

そんな中、村（当時）は月々の現金収入が見込め、村の振興を図り、ひいてはこの地の生活環境を変える可能性のある乳牛に目を付けた。なにぶん初めてのことであったため、まずは飼いやすさ、そして農作物には厳しい蒜山の気候に適しているかが重用視された。その点、ジャージー牛は粗食に耐える牛であったし、集団性に富み、温厚で

扱いやすく、山地で放牧管理するのに適していたため、蒜山高原にはうってつけであった。

　最初に入ってきた200頭のジャージー牛は、順調に増え続け1971年の3200頭をピークに、全国一の飼養頭数を誇るに至った。導入当初は牧草が粗末だったせいもあり、1頭につき年間3500～4千キロの乳量であったが、近年は飼料の改良などもあって6500キロ程度の採乳が可能となった。

　英国王室が愛し、蒜山を救ったジャージー種の牛乳は確かに濃厚であった。牛乳瓶の上部にクリームの層が出来るほど乳脂肪分が多いのだ。瓶を傾けてもクリームのフタが邪魔をして牛乳が口の中に流れて来ない。事情を知らない人からは「牛乳が出て来ない」とクレームが入ることもあるそうだ。

　牛乳の脂肪分は3・6～4・2％程度が一般的だが、ジャージー牛の場合、これが5・0％もある。濃厚な風味を損なわず、4・2％程度まで脂肪だけを抜いたものが成分調整牛乳。脂肪が抜けたとはいえ、依然濃厚で牛乳本来の甘さとコクが味わえる。調整を行わない5・0％の牛乳と共に蒜山酪農のツートップである。

　蒜山の学校では給食に地元の牛乳が出る。子どもの頃から慣れ親しんだ味なので、大人になって蒜山を出て、他の地で牛乳を飲む度に「薄い」と感じるのだとか。なんともぜいたくな悩みである。

蒜山を代表する乳製品

## 最高のミルクを生み出す環境

　蒜山のジャージー牛は、生後13カ月目から種付けが行われる。人間と同じで種付け後10カ月の妊娠期間を経て分娩となる。分娩すると乳が出始めるが、2カ月後には乳を出す期間がとぎれないように2回目の人工授精が行われる。こうして毎年出産と妊娠を繰り返し、5～6年で廃牛、食肉となる。駆け足だが、これが乳牛の一生だ。

　乳を出さないオス牛の場合は、ごくわずかな種牛以外は肉牛として育てられ、生後26～28カ月で出荷される。肉質はやわらかくジューシー。和牛に比べると脂肪が少ない赤身だが、鉄分を多く含むため色合いが濃く後味はあっさりしている。流通量も少ないため蒜山以外ではなかなか手に入りにくいが、昨今のヘルシーブームの中、注目のレアグルメである。

機械で乳を搾る昨今、小学生を招いての乳搾りは貴重な体験だ

　搾乳される牛は通年を牛舎の中で過ごす。つまり、分娩前に放牧される以外は、一生のほとんどを屋内で過ごすのだ。だから日常の生活空間である牛舎は、なかなか快適な作りとなっている。年齢別に区切られたスペース内は自由に動けるようになっていて、スト

レスがたまらないよう工夫されている。
　普段は入れない牛舎を特別に見せてもらった。柵の近くを通ると牛たちが一斉に走り寄ってきた。どうやら人懐っこい性格らしい。黒目がちな目はくりっと大きく、睫毛も長く愛らしい表情だが、よく見ると角が生えていた跡がある。生後1カ月で焼き切ってしまうのだが、一度切ると生えてこなくなり、性格もおとなしくなるという。

昔からこの地に住み着いていると言われる妖怪スイトン。蒜山三座（写真奥）と共に町の人に親しまれている

　エサは、主食である干し草を1日に20キロ、早朝と夕方に分けて食べる。また、成長の度合いによって穀物などの濃厚飼料が適度に与えられる。月齢によって与えられるエサの種類も量も異なり、計画的に管理されている。こうした環境整備のかいもあり、質の高い乳を大量に採取出来るようになった。
　搾乳が行われるのは毎朝夕。ミルカーという機械を使って1日に1頭当たり約18～25キロの乳を搾る。蒜山地域では、44戸の酪農家がジャージー牛乳を生産しており、各農家で搾られた生乳は1・5～2度に冷やした状態で保管されていて、朝に一度組合が収集して回る。1日に集める乳の量は21トン。組合が所有する巨大なストレージタンクに集められ、殺菌後、牛乳を始めヨーグルトやチーズなどさまざまな乳製品となる。お取り寄せでもいいが、出来ることなら蒜山三座の下、高原の空気と共に味わいたい。

## 自慢 郷土自慢・クラブ自慢

　蒜山ライオンズクラブのクラブ自慢は、地元のソウルフード「ひるぜん焼そば」。昭和30年代、蒜山高原に空前のジンギスカンブームが訪れた際、各家庭で自家製ダレ作りが流行した。タレはジンギスカン以外にもさまざまな料理に応用され、後に「ひるぜん焼そば」と呼ばれるご当地グルメもこの過程で誕生した。かしわ肉（親鳥）と、周辺で採れる高原キャベツに味噌ベースの甘辛ダレが絡み合った他に類を見ない味は、長く地元で愛され続けてきた。だから蒜山でやきそばと言えばこの味。ソース焼きそばの存在は大人になるまで知らなかったという人もいるほどだ。
　最近ではメディアで取り上げられる機会も多くなり、知名度は全国区に。このご当地グルメで地元の活性化を目指す市内10店舗の飲食店では、それぞれ店の個性を生かしたメニューを用意。「ひるぜん焼そば」目当ての観光客が増えることに大いに期待を寄せている。

▼蒜山ライオンズクラブ（新田健雄会長／26人）＝1981年1月21日結成／スポンサー：湯原ライオンズクラブ
▼年に4回、巡回献血バスに付き添い、採血者にパンや牛乳をプレゼントする献血促進活動を行う他、4月の「天の岩戸祭り」で、子どもに乗馬体験をさせるアクティビティを実施。

# 読者から―11月号

**■今こそ東北へ**

震災以来、支援活動で東北へ行くことが多くなったが、ゆっくり旅をすることは少ない。今年は初めて山形県の天童を訪れ、いも煮会に参加したこともあり、THEME「東北を旅する」では、その時ご一緒した野川亘地区ガバナーの記事を特に興味深く読んだ。他にも東北の名所が紹介されており、クラブの旅行や、仕事上でのお付き合いにも参考になった。

東京江戸川東ライオンズクラブ●茅島純一

**■トップのリーダーシップ**

「獅子吼」の本間次夫の「東日本大震災に負けず会員増強に健闘」を拝読。私ども334-E地区では会員増強が思うように進展していませんが、甚大な被害を被られた332-C地区（宮城）が純増全国トップ、332-B地区（岩手）も純増で、332複合地区でも純増達成との記事に、驚きと共に恥ずかしさを感じました。会員増強は毎年継続的な活動を続けることが肝要ですが、何よりもトップに立つ人の行動が大事だと感じました。THEMEは被災地の元気を取り戻すための企画だと思いますが、復興の現状を広く全国のライオンに伝達し、一過性ではなく継続的な支援が必要であると知らせることが何より大事だと、私は考えています。

長野中央ライオンズクラブ●上田正昭

**■いざという時に**

台風12号災害の記事は、私自身がボランティアに参加した活動でもあり、取り上げて頂いて感謝しています。今回の支援で、災害時における物資の援助には現地の様子を素早く把握することがいかに重要かを知りました。今後のアラートの必要性を感じています。

三重県・菰野ライオンズクラブ●稲垣昭

**■立場が人を作る**

「クローズアップU50」で紹介された、沖縄県の宜野湾・普天間ライオンズクラブの伝統に驚きました。新会員にライオンズクラブ活動を理解させるために、どんどん役職に就けるという伝統は、従来の在籍年数による年功序列的なクラブ運営と比較して、賛否両論あると思います。しかし、会員減少の時代、「立場が人を作る」との言葉通りに、若手に責任のある立場を与えて、ライオニズムを理解させることは、クラブの厚みを増し、ひいては若手会員の退会を防ぐ効果もあると考えます。現在、私も30代でクラブ幹事を仰せつかっています。

宮城県・仙台青葉ライオンズクラブ●平嶋敬義

## ライオン誌事務所来訪者芳名録

11 2 鳥取県倉吉打吹 尾崎明雄
11 2 東京綾瀬 小森康一
11 2 東京小金井 梶原正和
11 10 千葉県四街道 楠岡巖
11 11 東京葛飾 奥山貞夫
11 30 東京 池崎道男

## ライオン誌例会のススメ

ライオン誌日本語版委員会はクラブ例会でライオン誌を活用する「ライオン誌例会」を推奨しています。本誌の記事を材料にして、クラブの運営・活動について議論してみてはいかがでしょう。

1月号THEMEⅡ（12～19ページ）では、海外のクラブの活動リポートを集めました。それぞれの国の特徴あるアクティビティや、日本ではあまり例のない資金獲得事業など、中には今後の活動のヒントになる事例があるかもしれません。地域のニーズと照らしてみてはどうでしょう。

ライオン誌例会のノウハウを収めた「ライオン誌例会 開催ガイド」をぜひご活用ください。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でPDFファイルをダウンロード出来ます。

## ライオン誌投稿要領

**■クラブ・リポート** 今月号30～40ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

**■獅子吼** 今月号41～45ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。

▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は掲載に適しません。

▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

## もう一度読みたい「あの記事」

●1965年1月号　1月：ライオンズ創設者報恩月間

# 「クラブは誰のもの?」

創設者メルビン・ジョーンズ（1961年逝去）の示唆に富んだマンスリー・レターは世界中のライオンに熱心に読まれました。クラブ会長、幹事に宛てて書かれたものですが、内容はすべての会員に益となるもので、今日もその重要さ、適切さを減じていません。ここに1931年3月のマンスリー・レターを再録しました。

◆

「クラブはいったい誰のものか?」

私は私なりにクラブに興味を持っているので、それは他の人のものであると同時に、私のものでもあると考えていました。ところがジョンの態度を見ていると、まるでクラブは彼一人のもののように思われます。彼はいつも例会に一番に来て他の会員を迎え、ゲストがある時はクラブを代表して歓迎します。私が知りたいのは、クラブは誰のものかということです。

シカゴ郊外にある細長い約500坪の土地を、私は我が家と呼んでいます。ある暖かい日曜日、日差しの当たる南向きの斜面で、ぴったり寄り添う2匹のヘビを見つけました。私は追い払いたい衝動に駆られ、手袋を投げました。ヘビは驚こうともせずそれに飛びつき、取り戻そうと伸ばしたステッキに歯を向けてきます。自分たちの場所だということをはっきり示そうとしたのでしょう。

小山の方に足を向けると、野生のリスが自分たちの方に来させないように、きゃっきゃっと騒ぎたてました。私はリスを穴に追い込み、出口をめちゃめちゃにしました。しかし私がそこからいくらも離れないうちに、リスは穴から出てきて、この辺りは自分のもので侵入者は離れるべきだという仕草で、私を威嚇するのでした。

季節が変わり、コマドリがやってきました。彼らは我がもの顔に住まいの窓下に巣を作り、喜びにさえずり、芝生の上を幸福そうに飛び跳ねました。夏になるとミツバチが来て、花の所有権を主張します。花園は自分の場所だという私の妻は、ミツバチを追い払うよう私に言いましたが、彼らはただ四方から飛んできて、1日中そこにいるのでした。

やがて冬が訪れ、雪は地面を真っ白に包み、ミツバチも花も、小鳥も去ってしまいました。妻は南部へ行きました。ここには何もなく、ただ生気のない植え込みと雑草が残るのみです。そこで私は、暖かい南風がやってくる方角へ悲しい目を上げ、言うのでした。

「急げ、南風よ。そして春を早く運んでこい。夏を、花を、小鳥を、私の妻を運んでこい。自分のものだと思っていたこの土地は、実は彼らのものであり、彼らなしには生気のないものだから。私のものは彼らのもので、彼らのものは私のものであり、同時に私たちのものだから」と。

さて、誰がクラブを所有しているのでしょうか。トム、ジム、フランク、それともジョンのものでしょうか。ジョンは皆と握手するのを好み、トムは歌うことを好み、ジムは司会者になるのを好む。フランクは堅いワイシャツを着て教養人らしく振る舞うのを好む。クラブは彼ら皆のクラブであります。私はクラブの自席に収まり、これは私のクラブだと思うことが好きです。そこで私のクラブは彼らのクラブであり、彼らのクラブは私のクラブであり、同時に私たちのクラブです。私たちのクラブは、私のクラブでもあります。

## 読者プレゼント

**■マニラ土産を5人に**

フィリピン・マニラで第50回OSEALフォーラム取材に当たったスタッフが持ち帰ったお土産、繊細な生地に刺繍を施したハンカチ（2枚セット）を読者5人にプレゼント。フォーラム会場では、ポケット・チーフとして使っている日本のメンバーの姿もチラホラ。

**応募要領**：ご希望の方は、はがきに「マニラ」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0）からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は1月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

## 次号予告

LION IN JAPAN 2 自然エネルギー最前線

THEME
### 自然エネルギー最前線

震災以降、関心が高まっている自然エネルギー。ヨーロッパでの事例や日本国内での先進的な取り組み、また今後の可能性について、別府大学の阿部博光准教授に寄稿してもらう他、神奈川県相模原市の住民有志による「串川発電クラブ」の活動を紹介する。

### Pick up メンター・プログラム

近年、企業の人材育成に活用されているメンター制度は、指導者であるメンターと被育成者のメンティーとがパートナーを組んで教育を進めるというもの。国際協会は10年前に取り入れているが、日本で導入しているクラブは少ない。その一つ、高知桜ライオンズクラブを取材。

### ふるさと探訪 栃木県大田原

かつて、とうがらしの生産量日本一を誇った大田原では今、とうがらしを軸とした町おこしが展開されている。

## 築地通信

●フォーラム参加の目的はさまざま。クラブの仲間との旅を楽しむのもよし、姉妹クラブと交流を深めるのもよし、海外や他地区のメンバーとの新たな出会いもうれしい。もちろん、フォーラムそのものに目的意識を持って参加している方もいる。閉会式でのこと。式が終わったところで、ある元地区ガバナーに手招きされた。式では同時通訳がなかったのだが、タム国際会長のスピーチで、聞き取れなかった部分があるので内容を知りたいとのこと。「帰ったら地区のみんなに、国際会長の言葉を伝えなくてはならないから」とおっしゃる元ガバナーの隣では、奥様が電子辞書を片手に、一緒にメモを取っておられた。こんなリーダーに恵まれた地区の皆さんは幸せだと思う。（かわむら）

●訂正とお詫び

12月号THEMEⅡ「I Believe」（17ページ）で原稿執筆者ライオン村上紘一郎の生年は、正しくは1942年でした。




問い合わせ先：ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
電話：03-3542-9571
ファクス：03-3546-2630
Eメール：office@thelion.jp

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish,Indnesian and Thai.

**EXECUTIVE OFFICERS**
President Wing-Kun Tam, Unit 1901-2, 19/F, Far East Finance Centre, 16 Harcourt Road, Hong Kong, China; Immediate Past President Sid L. Scruggs III, 698 Azalea Drive, Vass, North Carolina, 28394, USA; First Vice President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA; Second Vice President Barry J. Palmer, PO Box 200, Berowra, NSW 2081, Australia.

**DIRECTORS**
**Second year directors**
Yamandu P. Acosta, Alabama, United States; Douglas X. Alexander, New York, United States; Dr. Gary A. Anderson, Michigan, United States; Narendra Bhandari, Pune, India; Janez Bohori , Kranj, Slovenia; James Cavallaro, Pennsylvania, United States; Ta-Lung Chiang, Taichung, MD 300 Taiwan; Per K. Christensen, Aalborg, Denmark; Edisson Karnopp, Santa Cruz do Sul, Brazil; Sang-Do Lee, Daejeon, Korea; Sonja Pulley, Oregon, United States; Krishna Reddy, Bangalore, India; Robert G. Smith, California, United States; Eugene M. Spiess, South Carolina, United States; Eddy Widjanarko, Surabaya, Indonesia; Seiki Yamaura, Tokyo, Japan; Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland.

**First year directors**
Joaquim Cardoso Borralho, Linda-a-Velha, Portugal; Marvin Chambers, Saskatchewan, Canada; Bob Corlew, Tennessee, United States; Claudette Cornet, Pau, France; Jagdish Gulati, Allahabad, India; Dave Hajny, Montana, United States; Tsugumichi Hata, Miyagi, Japan; Mark Hintzmann, Wisconsin, United States; Pongsak “PK” Kedsawadevong, Muang District, Thailand; Carolyn A. Messier, Connecticut, United States; Joe Al Picone, Texas, United States; Alan Theodore “Ted” Reiver, Delaware, United States; Brian E. Sheehan, Minnesota, United States; Junichi Takata, Toyama, Japan; Klaus Tang, Wied, Germany; Carlos A. Valencia, Miranda, Venezuela; Sunil Watawala, Negombo, Sri Lanka.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

**ライオン誌日本語版委員会**
国際理事　山浦晟暉
国際理事　秦　従道
国際理事　高田順一
委員長　澁田繁晴（337複合地区）
編集長　後藤　忍（331複合地区）
委　員　宇田川雄弘（330複合地区）
委　員　種市一二（332複合地区）
委　員　高濱正敏（333複合地区）
委　員　矢口武克（334複合地区）
委　員　竹本實生（335複合地区）
委　員　小田邦雄（336複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

## 編集室

# よく生きる

ライオン誌日本語版委員
◉
小田邦雄
（岡山西）

以前聞いた五木寛之氏の話を思い出した。

古代インドでは人生を四つの時期に分けて考えたという。「学生期」「家住期」「林住期」「遊行期」。うち「林住期」についての話は、最も多くの人の耳を集めた。社会人として務めを終えた後、すべての人が迎える、最も輝かしい「第三の人生」のことである。五木さんは50歳から75歳までの25年間を「林住期」と呼び、真の人生のクライマックスと考え、その「林住期」を自分の人生の黄金期として開花させることを「学生期」「家住期」のうちから計画し、夢見て、実現することが大事だと説かれて話を結ばれた。

世界の多くで団塊世代の大量退職が始まっている。まさに「林住期」の真っただ中である。その世代がどのような生き方をするかで、これからの日本が大いに変化すると思われる。

これはライオンズにも十分当てはまることである。「学生期」のレオ、仕事に打ち込みながら一方で奉仕の喜びを得る「家住期」、そして「林住期」に黄金期を迎え、それをいかに「遊行期」へ持ち込むか。そこに人生の妙があるような気がする。

京都大学総長を長年務められた故西島正則氏のお話は、何度となく聞く機会があった。

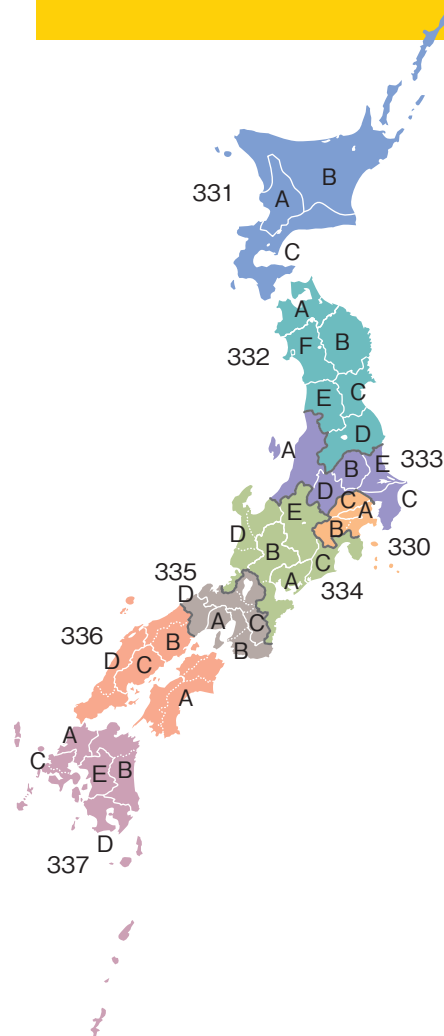
先生は人生の哲学を説かれた。それは「ただ生きるのではなく、よく生きること」ということだった。先生のお話は、私にはいつもライオンズ的なものとして聞こえていた。

「よく生きる」。この哲学はソクラテスやプラトンがはるか古代に説いた人生哲学である。最後にプラトンが到達した境地は、国を治める人は誰よりも正義感を心の柱として生き、善ということに対してしっかりと肝に持っている人でなければならないということだ。古代も今も変わりはない。そのような指導者が統治して初めて、世界は、また日本は良い方向に向かうであろうという思いを、昨今特に感じるところである。

# 日本ライオンズクラブ分布図

## 日本のライオンズ

2011.11.30　eMMR ServannA報告による

| 地区 | 都道府県 | クラブ数 | 会員数 | 男性会員 | 女性会員 | 会員数増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 330-A | 東京 | 200 | 5,018 | 4,339 | 679 | 91 |
| 330-B | 神奈川･山梨･東京 | 180 | 4,999 | 4,418 | 581 | 89 |
| 330-C | 埼玉 | 97 | 2,429 | 2,167 | 262 | 29 |
| 330 | 計 | 477 | 12,446 | 10,924 | 1,522 | 209 |
| 331-A | 北海道（道央） | 71 | 2,484 | 2,309 | 175 | 33 |
| 331-B | 北海道（道北･道東） | 90 | 2,529 | 2,413 | 116 | 47 |
| 331-C | 北海道（道南） | 56 | 1,898 | 1,700 | 198 | 13 |
| 331 | 計 | 217 | 6,911 | 6,422 | 489 | 93 |
| 332-A | 青森 | 66 | 1,738 | 1,592 | 146 | 20 |
| 332-B | 岩手 | 55 | 2,246 | 1,582 | 664 | 28 |
| 332-C | 宮城 | 77 | 1,563 | 1,278 | 285 | 30 |
| 332-D | 福島 | 76 | 1,980 | 1,794 | 186 | 24 |
| 332-E | 山形 | 58 | 1,850 | 1,645 | 205 | 34 |
| 332-F | 秋田 | 51 | 1,309 | 1,074 | 235 | 23 |
| 332 | 計 | 383 | 10,686 | 8,965 | 1,721 | 159 |
| 333-A | 新潟 | 77 | 2,850 | 2,539 | 311 | 2 |
| 333-B | 栃木 | 57 | 1,601 | 1,154 | 447 | 18 |
| 333-C | 千葉 | 139 | 3,573 | 2,984 | 589 | 37 |
| 333-D | 群馬 | 53 | 2,107 | 1,708 | 399 | 31 |
| 333-E | 茨城 | 78 | 2,833 | 2,531 | 302 | 24 |
| 333 | 計 | 404 | 12,964 | 10,916 | 2,048 | 112 |
| 334-A | 愛知 | 121 | 5,343 | 4,797 | 546 | 75 |
| 334-B | 岐阜･三重 | 82 | 3,564 | 3,280 | 284 | 60 |
| 334-C | 静岡 | 83 | 3,205 | 3,087 | 118 | 49 |
| 334-D | 富山･石川･福井 | 97 | 3,948 | 3,699 | 249 | 58 |
| 334-E | 長野 | 53 | 2,100 | 1,863 | 237 | 62 |
| 334 | 計 | 436 | 18,160 | 16,726 | 1,434 | 304 |
| 335-A | 兵庫（東） | 98 | 2,475 | 2,125 | 350 | 25 |
| 335-B | 大阪･和歌山 | 188 | 5,799 | 5,136 | 663 | 105 |
| 335-C | 滋賀･京都･奈良 | 121 | 3,997 | 3,692 | 305 | 65 |
| 335-D | 兵庫（西） | 68 | 2,022 | 1,809 | 213 | 24 |
| 335 | 計 | 475 | 14,293 | 12,762 | 1,531 | 219 |
| 336-A | 徳島･高知･香川･愛媛 | 151 | 5,699 | 5,034 | 665 | 82 |
| 336-B | 鳥取･岡山 | 97 | 3,161 | 2,851 | 310 | 17 |
| 336-C | 広島 | 101 | 3,509 | 3,311 | 198 | 57 |
| 336-D | 島根･山口 | 102 | 3,297 | 3,065 | 232 | 43 |
| 336 | 計 | 451 | 15,666 | 14,261 | 1,405 | 199 |
| 337-A | 福岡･長崎 | 117 | 4,547 | 4,018 | 529 | 123 |
| 337-B | 大分･宮崎 | 73 | 2,358 | 2,190 | 168 | 84 |
| 337-C | 佐賀･長崎 | 84 | 3,121 | 2,615 | 506 | 44 |
| 337-D | 鹿児島･沖縄 | 81 | 2,395 | 2,189 | 206 | 8 |
| 337-E | 熊本 | 58 | 1,613 | 1,470 | 143 | 44 |
| 337 | 計 | 413 | 14,034 | 12,482 | 1,552 | 303 |
| 総計 | | 3,256 | 105,160 | 93,458 | 11,702 | 1,598 |
| 世界のライオンズの | | 7.0% | 7.7% | | | |

## 世界のライオンズ

2011.11.30　国際協会集計

| | |
|---|---|
| ライオンズ国または領域 | 206 |
| 世界のクラブ数 | 46,434 |
| 世界の会員数 | 1,358,385 |
| 期首からの増減 | 16,877 |

| 国 | クラブ数 | 会員数 | 期首からの増減 |
|---|---|---|---|
| アメリカ | 12,384 | 353,991 | -3,582 |
| インド | 6,140 | 215,851 | 11,160 |
| 韓国 | 2,116 | 85,218 | 1,881 |

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2011年(平成23年)12月20日発行　毎月1回20日発行　第54巻第7号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社

# 51st OSEAL Forum

## 第51回東洋・東南アジア(OSEAL)フォーラム・福岡

**■フォーラム・テーマ**
LEADERSHIP

**■期間**
2012年11月8日(木)～11日(日)

**■主要会場**
マリンメッセ福岡（開会式）
福岡国際会議場（各種会議・セミナー）
ホテルニューオータニ博多（閉会式）

**■第51回東洋・東南アジア・フォーラム組織委員会事務局**
〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1-1-2
ホテルニューオータニ博多5F
TEL:092-741-8601
FAX:092-741-8607
E-mail:lc51forum@iaa.itkeeper.ne.jp